

福井大学生涯学習市民開放プログラム

受講生募集要項 2026 年後期



格致によりて
人と社会の未来を拓く



国立大学法人

福井大学

－ はじめに －

福井大学共通教育部^{注1)}では、本学の授業を学生とともに受講する市民・社会人の方々を募集します。

これは、福井大学共通教育部が行う大学開放活動の一環で、市民の方々に授業を開放して生涯学習の機会を提供すること、及び社会人の方々が時代の変化に合わせて学び直すことができるリカレント教育の機会を提供することを目的とするとともに、地域社会と大学との連携をより一層深めようとするものです。

「生涯学習市民開放プログラム」として開放する授業の受講にあたっては、受講生として登録していただく必要があります。なお、授業はあくまでも本学の学生を対象にしたものであるため授業内容がご希望に沿うものであるかどうかを試聴期間中に十分に検討された上でご登録ください。

2020年度より教育学部・工学部・国際地域学部の専門教育科目の一部である「教養専門教育科目」^{注2)}が開放され、受講対象科目となりました。

以下の要項にしたがい、受講生として登録していただき、本学の学生・教職員とともにキャンパスライフをご体験ください。

注1)本学の共通教育など学部生に共通して必要な教育を実施するために本学のすべての教員で構成される組織です。

注2)本学で専門教育科目の一部を各専門の課程や学科に所属しない異分野の学生に開放している科目です。したがって、これらの科目の内容は専門的であり、受講に際しては「地域コア科目・教養教育科目」に比べ専門的な知識を必要としますので、シラバス等で授業内容をよくご確認ください。受講に関する質問等があれば、教務課 学務総務・共通教育担当へお問合せ願います。

I 実 施 形 態

【開放授業科目等】

- 1 「市民開放授業科目一覧」（８ページ）のとおりです。

【受講形態】

- 2 受講形態は２通りあります。

A) １科目単位で自由に受講できるフリーコース

関心のある科目を自由に選択し１科目から受講できるコースです。

B) テーマに沿った科目群を受講するプログラムコース

特定のテーマに沿って体系化された教育プログラムを選択し受講するコースです。複数の科目を効果的に受講することにより専門性を高めることができ、１～３年程度の長期的な期間にわたり受講していただけます。

各プログラムの修了要件（５科目以上の受講）を満たした場合は「プログラム修了証書」を発行いたします。

【募集定員】

- 3 各科目の募集定員は、「市民開放授業科目一覧」に記載のとおりです。なお、募集定員を超える応募があった場合は、抽選により受講生を決定いたします。

【開講期間及び授業時間】

- 4 前期の開講期間は、**２０２６年１０月１日（木）から２０２７年１月２８日（木）（２月１日～２月５日は期末試験期間）**までです。

各科目は基本的に１５回の授業＋１回の試験で構成されています。

「地域コア科目・教養教育科目」は月曜日１時限、火曜日２時限及び木曜日１時限の３箇所の時間帯で開講しています。「教養専門教育科目」の授業時間は月曜日１時限から金曜日５時限の時間帯で開講されます。

なお、担当教員のやむを得ない事情等により、授業日時を変更する場合がありますので、ご了承ください。

授 業 時 間					
時 限	1	2	3	4	5
時 間	8 : 4 5 ～ 1 0 : 1 5	1 0 : 3 0 ～ 1 2 : 0 0	1 3 : 0 0 ～ 1 4 : 3 0	1 4 : 4 5 ～ 1 6 : 1 5	1 6 : 3 0 ～ 1 8 : 0 0

【単位認定等】

- 5 市民開放プログラムの受講生には、「単位認定」は行いませんが、希望者には受講完了時に「修了証書」を発行します。フリーコースの場合は科目ごとの修了証書、プログラムコースの場合はプログラム修了証書の発行となります。修了証書の発行を希望される場合は、４ページの【修了証書の交付】をご参照ください。

また、単位の認定（修得）を希望される方は「科目等履修生」と呼ばれる別制度に

したがって入学する必要があります。詳しくは教務課窓口にお尋ねください。

なお、期末試験については受験する必要はありませんが、受験を希望される場合は担当教員にお申し出ください。

Ⅱ 受 講 手 続

【受講希望調書の提出】

- 6 募集要項巻末の「受講希望調書」を9月7日（月）から9月11日（金）【必着】の期間内に郵送にて提出してください。募集定員を超える応募があった場合は、抽選により受講生を決定いたします。抽選の結果、受講できない場合にはその旨通知いたします。なお、次のフォームよりインターネットで申し込むことも可能です。

<https://forms.gle/dLapaQgNcuxVRc2H7>



【受講希望調書の受理確認】

- 7 「受講希望調書」を受理後、「受講届」及び「ID 通知書」、対面授業の場合は「仮受講証」を郵送いたします。

もし授業開始日の3日前までに書類が届かない場合は教務課にお問合せください。

「受講届」	試聴期間後の本申込み時にご提出いただきます。
「ID 通知書」	学習支援システムの利用時に使用します。 オンライン授業の受講時、及び対面授業においても授業に関する連絡事項を確認する際に使用します。
「仮受講証」	対面授業の受講希望者に送付します。 試聴期間中は「仮受講証」を身に付けて受講してください。

【受講の科目数】

- 8 受講できる科目数は、本学の定めに従い、「地域コア科目・教養教育科目」・「教養専門教育科目」合わせて6科目までとします。

【受講の試聴期間】

- 9 受講を希望する授業の概要を確認した上で、受講を決定していただくために以下のように試聴期間を設けます。この期間中に受講を決めた科目の「受講届」を提出してください。なお、試聴期間中に新たに受講科目を追加することは出来ません。

試聴期間： 2026年10月1日（木）～10月15日（木）

※10月15日（木）は月曜日の授業（30ページの授業日程参照）

【受講科目の登録】

- 10 受講科目を決められた方は、「受講届」に授業科目名等を記入し、10月5日（月）から10月16日（金）【必着】までに教務課に郵送又は持参にてご提出ください。

また、初めて受講される方は、「受講証」用の顔写真（4cm×3cm）1枚を、同封のうえご提出ください。次のフォームよりインターネットで申し込むことも可能です。

<https://forms.gle/MXmA2JLqrxZFm9nf6>



【受講料の納付等】

- 11 前項 10 の受講科目の登録と併せて受講料を納付してください。納付期間は「受講届」の提出期間と同じ期間です。

受講料：1 授業科目 9, 400 円

納付方法：銀行振込のみ

お近くの ATM 等から下記口座へ振り込みください。

振込手数料は受講生負担となります。

金融機関：福井銀行 振込専用支店

口座種類：普通

口座番号：53999

口座名義：ダイワシティバンク

振込名義人を入力する際、授業番号と受講生本人の氏名をカタカナで入力してください。（例 1）

複数の授業分をまとめて振り込む際には、授業番号をハイフンで続けて入力してから受講生本人の氏名を入力してください。（例 2）

例 1（1 授業分の場合） 22 フクイハナコ

例 2（2 授業分の場合） 22-23 フクイハナコ

※教務課窓口での現金払いはお受けできません。

いったん納入された受講料は返還できませんので、あらかじめご了承ください。

なお、受講生が授業で使用するテキスト代及び授業に係るその他の費用は、受講生の負担となります。

【受講証の交付】

- 12 受講科目の登録及び受講料の納付を済まされた方には「受講証」を郵送いたします。複数の授業科目を受講する場合でも受講証は 1 部のみの発行となります。「受講証」及び「ID 通知書」は受講科目の最後の授業終了後に持参または郵送にて返却をお願いします。（返却先は、7 ページの「書類の提出・問合せ先」をご参照ください）。

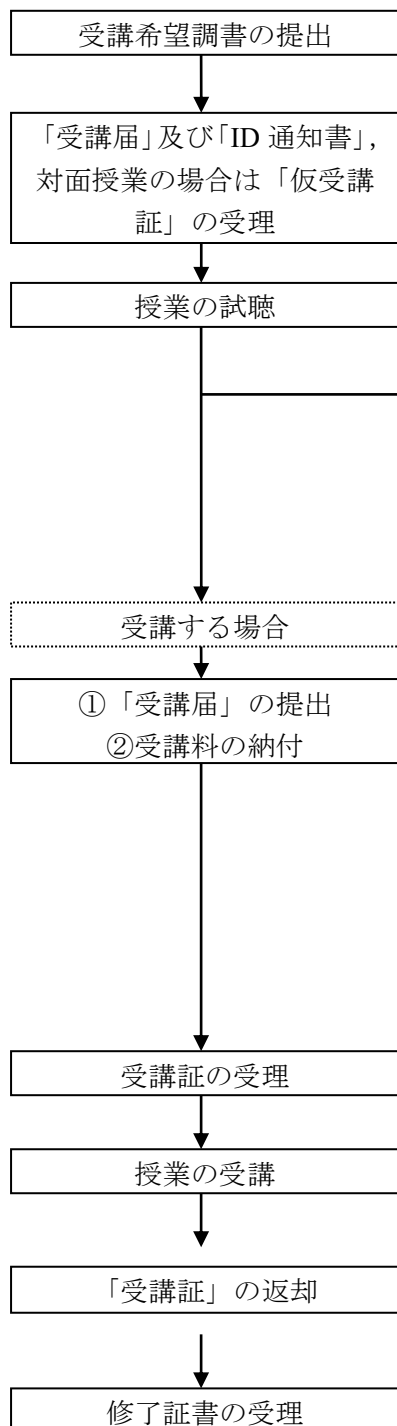
受講証をなくされた場合、再発行は有料になります。

また、下記の修了証書を希望される場合、出欠管理が必要となります。各教室の内側の前方に出席管理カードリーダーがありますので、学生と同様にご自分の受講証でタッチしてください。このカードリーダーはそれぞれ授業開始の 10 分前から有効となります。早すぎますと有効になりませんので十分注意してください。また、教室の外側、ドアの横に設置されているカードリーダーは電子錠用であり、**出席管理カードリーダーではありませんので注意してください。**

【修了証書の交付】

- 13 開講期間終了後に「修了証書」の交付を希望される場合は、受講届に交付の希望の有無を記載してください。受講状況を確認し、各科目において全授業回数の 2 / 3 以上出席されている場合は「修了証書」を発行します。

【受講手続きの流れ】



9月11日（金）までに郵送にて提出してください。
受講希望調書は本募集要項の最後の頁にあります。
（インターネットでも可）

受講希望調書を受け付けした後、「受講届」及び「ID 通知書」、対面授業の場合は「仮受講証」を郵送によりお届けいたします。

約2週間の試聴期間を設けています。
試聴のうえ受講するかどうかを決定してください。

受講しない場合

「受講届」及び「ID 通知書」、対面授業の場合は「仮受講証」を郵送により10月16日（金）までに返却してください。

- ① 「受講届」を郵送又は持参にて提出してください。
（インターネットでも可）

※初めて受講される場合は、「受講証」用の顔写真
（4cm×3cm）1枚も併せてご提出ください。

- ② 受講料は、銀行振込にて納付ください。
銀行振込の場合は、振込にて納付後に「受講届」を
郵送してください。
※「受講届」を持参する場合は受講料を事前に
納付してください。

受講届の受付、受講料の納付確認後、「受講証」を郵送
によりお届けいたします。（10月下旬）

試聴期間に引き続き、授業を受講してください。

最後の授業終了後、速やかに「受講証」を返却し
てください。

希望された受講生に「修了証書」を郵送によりお
届けいたします。

Ⅲ 受 講 に 際 し て

【授業に関する連絡事項】

- 14 対面授業，オンライン授業の授業方法を問わず，授業に関する連絡事項（休講・補講や教材，課題の提示等）は学習支援システム（UNIVERSAL PASSPORT，Google Classroom 等）に掲載されますので，適宜確認するようにしてください。なお，学習支援システムのマニュアルは試聴期間前に送付いたします。

【附属図書館の利用】

- 15 受講生は，附属図書館において受講証を提示することにより図書等の閲覧及び貸出しができます。

【福利厚生施設の利用】

- 16 受講生は，売店，食堂等の施設を利用することができます。

【受講生の呼び出し等】

- 17 対面授業の授業中における受講生への連絡や呼び出しには，対応できませんので，あらかじめご了承ください。また，授業中は，スマートフォン・携帯電話の電源をお切りください。

【受講生の義務】

- 18 受講生は，受講にあたり本学が行う教育及び研究に支障が及ぶことがないよう努めていただくとともに，授業担当教員の指示に従ってください。

【受講許可の取消】

- 19 受講生が前項 18 の義務に違反し，本学の秩序を乱し，または受講生としてふさわしくない言動があった場合，受講許可を取り消すことがあります。
なお，受講許可を取り消された場合でも，既納の受講料は返還できません。

【損害賠償】

- 20 受講生が本学の施設，設備等を破損したときは，届け出てください。場合によってはその損害を賠償していただくことがあります。

【来学方法等】

- 21 来学される場合は，公共交通機関等を利用してお越しください。
もし自動車による来学を希望される場合には，来学の都度，大学正門横の守衛所にて市民開放プログラム受講証を提示し入構の手続きを行ってください。受講生は入構料は課されませんが，受講証の提示がない場合は，入構料を徴収される可能性があります（カーゲート方式ですので，守衛所で所定の手続きをとらなければ大学構内に自動車で入ることはできません）。また，入講と出構の手続きが困難な事由（歩行に障害がある等）がある場合には，教務課窓口にご相談下さい。なお，受講証を交

付されるまでは一般の来学者と同じ立場で行動していただくことになります。

大学構内の駐車場にはスペースの余裕がないために満車場合があります。また、構内での自動車にまつわるトラブルや事故が起きた場合、大学側では責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

IV そ の 他

【書類の提出・問合せ先】

- 22 市民開放プログラムに関するお問い合わせは下記の教務課窓口までお願いします。
また、希望される授業科目の概要についてより詳しくお知りになりたい場合は、福井大学 Web シラバスをご参照ください。

<https://syllabus1.sao.u-fukui.ac.jp/>



福井大学学務部 教務課 学務総務・共通教育担当

〒910-8507 福井市文京 3 丁目 9 番 1 号

電 話：0776-27-8627

E-mail：kyoumu-kk@ml.u-fukui.ac.jp

【自然災害等による気象警報発表時に伴う休講等について】

- 23 大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪などの気象時及び津波、火山噴火、地震（地震動）などの災害時に特別警報が、福井地方気象台から発表された場合や市町村等からの避難指示等の発令があった場合、大学として休講措置をとることがあります。気象等に関する警報が出た場合や災害等が発生した場合は、福井大学ホームページのトップページで臨時休講の有無を確認できます。
インターネットを使用できる環境がない場合は、午前 8 時以降に福井大学教務課（0776-27-8627 又は 27-8600）にお電話でお問合せください。

【個人情報の取り扱いについて】

- 24 本学が諸手続等で取得した個人情報及び、在学中に新たに取得する個人情報については、「国立大学法人福井大学の保有する個人情報の保護に関する規程」に則り、「1. 休講等の諸連絡 2. 募集要項等の送付 3. 統計資料の作成」以外の目的では利用せず、適切に管理します。

市民開放授業科目一覧

※詳しい概要は 14 ページ以降の「市民開放授業科目概要」を参考にしてください。

フリーコースの場合は、以下に掲載の科目より選択してください。

- ・開放授業科目 [地域コア科目・教養教育科目]
- ・開放授業科目 [教養専門教育科目]

プログラムコースの場合は、以下に掲載の科目より選択してください。

- ・開放授業科目 [プログラム一覧]

－授業方法について－

① 対面型：

学内の講義室において、対面で授業を行う授業形態です。なお、授業中又は授業時間外学習としてオンラインの学習支援システムを使用する場合があります。

② オンデマンド型：

自宅等において、授業用の動画や PDF 資料等を視聴しながら自主学習を行う授業形態です。

オンデマンド型授業は指定の曜日・時限以外の時間帯に受講することも可能です。

※ ①+②の場合、授業日によって授業形態が異なります。

初回の授業時にご確認ください。

※ 授業方法等が変更となる可能性があります。初回の授業時にご確認ください。

2026年度後期 開放授業科目〔地域コア科目・教養教育科目〕

【ものづくり・産業振興・技術経営分野】

「対面」の場合も一部オンデマンドを併用することがあります。

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員	備 考
1	半導体の科学	地域創生推進本部	大久保 貢	月	1	①	133L	5 人	

【持続可能な社会・環境づくり分野】

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員	備 考
2	科学技術と倫理	工学部	今林 弘毅	水	1	①	大1講	2 人	
3	科学技術と倫理	工学部	高橋 一朗	月	5	①	133L	2 人	
4	コミュニティと住民組織	国際地域学部	田中 志敬	月	1	①	13講	5 人	
5	地域の局地気象	教育学部	三浦 麻	火	2	①	K420	5 人	
6	こども環境学入門	国際地域学部	粟原 知子	木	1	①	大2講	5 人	
7	日本海地域の自然と環境	工学部	川本 義海 他	木	1	①	131L	5 人	

【原子力・エネルギー分野】

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員	備 考
8	災害の科学	工学部	藤本、井上、小嶋、 本間、磯、鈴木、寺崎	火	2	①	133L	2 人	
9	災害ボランティア論	工学部	磯 雅人 他	木	1	①	K110	3 人	災害ボランティア研修会 (2コマ分)は日曜日の開 催を予定。

【人間理解・言語コミュニケーション分野】

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員	備 考
10	TOEIC入門	国際地域学部	ジャヌツィ チャールズ	月	1	①+②	14講	3 人	
11	応用倫理学入門	教育学部	白川 晋太郎	火	2	①	205講	5 人	
12	健康管理と食生活	教育学部	村上 亜由美	木	1	①	11講	3 人	
13	生涯学習とアクティブ・ラーニングA 仕事を通じた学習プロセスを探る	教育学部	半原、井口、隼瀬	木	1	①	コラボレーション ホール I	3 人	
14	コーチング心理学	共通教育部	鮫嶋 優樹	月	1	①	K120	4 人	

【歴史・文化理解分野】

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員	備 考
15	ヨーロッパの映画	国際地域学部	松田 和之	火	2	①	大2講	3 人	
16	日本語の歴史	教育学部	高山 善行	火	2	①	13講	5 人	
17	造形美術の世界－絵画	教育学部	湊 七雄	火	2	①	造形実習室	2 人	
18	考古学入門	国際地域学部	東村 純子	火	2	①+②	207講	2 人	
19	日本家族史2 (近世からさかのぼる)	教育学部	藤方 博之	火	2	①	206講	2 人	
20	地図に見る歴史と景観	教育学部	門井 直哉	木	1	①	大1講	5 人	
21	事件で見る中国思想史	教育学部	黒田 秀教	木	1	①	101講	5 人	
22	自然と人間	国際地域学部	下野 葉月	木	1	①	13講	5 人	
23	造形美術の世界－原初・自然・美	教育学部	小笠原 文	月	1	①	102講	2 人	

【社会経済分野】

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員		備 考
24	マネジメント入門	国際地域学部	竹川 充	火	2	①	K120	5	人	
25	主権者意識をはぐくむ	教育学部	橋本 康弘	木	1	①+②	207講	3	人	Google classroomを活用し、classroomを通して、具体的な指示を行います。
26	現代社会論	人文社会系部門	佐藤 貴宣	火	2	①	11講	5	人	
27	ラテンアメリカの政治と社会	国際地域学部	清水 麻友美	木	1	①	コミュニティプラザ	5	人	英語のテキストを課題に含む

【科学技術分野】

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員		備 考
28	ランダム現象の記述	教育学部	松本 智恵子	月	1	①+②	情報処理演習室	5	人	UNIVERSAL PASSPORTとGoogleClassroomを併用。 原則、対面型だが、授業は全て録画するため、遠隔(オンデマンド型)で授業を受けることが可能。
29	対話と直観と共感で学ぶ物理	教育学部	山田 吉英	月	1	①	理科カリキュラム開発実験室	2	人	
30	ゲームとパズルの数学	教育学部	西村 保三	火	2	①	総合大2	5	人	
31	微分方程式と力学 ～高校力学の一步先へ～	工学部	山田 徳史	月	1	②		3	人	中間試験、期末試験は教室で実施します。
32	科学的な見方・考え方	教育学部	山田 吉英 小林 和雄	火	2	①	理科カリキュラム開発実験室	5	人	受講人数が少ない場合、(授業内容は変更なし)授業方法が大きく異なる場合がある。例年、前期の方が人数が多く、後期は少人数という傾向がある。
33	ニュートリノと放射線	工学部	中島 恭平	火	2	①	総合小2	5	人	
P1	データサイエンス・AI入門	工学部	玉井 良則	火	2	②		5	人	リアルタイムオンライン
34	音で診る世界	工学部	松田 直樹	火	2	①	132L	5	人	
35	くらしの中の電子機器とVR	工学部	川井 昌之	火	2	①	221M	5	人	対面授業ですが、授業中にクラスルームを使用するので、スマホがインターネット接続できるPCが必要です。
36	生体機能と化学物質	工学部	吉見、松本、高橋、 杉原、前田	木	1	①	132L	2	人	

2026年度後期 開放授業科目〔教養専門教育科目〕

【教育学分野】

「対面」の場合も一部オンデマンドを併用することがあります。

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員		備 考
101	社会保障法	教育学部	清水 泰幸	月	2	①	202講	3	人	
102	教育測定論	教育学部	岸 俊行	火	3	①	104講	5	人	
103	初等確率論	教育学部	松本 智恵子	木	4	①+②	総合情報基盤センター 第1端末室	5	人	UNIVERSAL PASSPORTとGoogleClassroomを併用。原則、対面型だが、授業は全て録画するため遠隔(オンデマンド型)で授業を受けることが可能。
104	労働法	教育学部	清水 泰幸	月	2	①	202講	3	人	
105	発達障害教育総論	教育学部	藤岡 徹	月	5	①	大1講	5	人	「特別支援教育総論(前期・月曜5限)」の単位を取得していることが履修の条件です。
106	障害者福祉制度論	人文社会系部門	佐藤 貴宣	水	3	①	105講	2	人	

【工学分野 機械・システム系】

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員		備 考
107	熱力学Ⅱ	工学部	永井 二郎	月	4	①	223L	5	人	熱力学Ⅰを履修していることが望ましい。 LMS(UNIVERSAL PASSPORT)を併用して授業を行います。
108	原子炉構造工学入門	工学部	桑水流 理	月	5	①+②	総合大1	5	人	
109	機械材料Ⅰ	国際原子力工学研究所	福元 謙一	水	5	①	223L	5	人	
110	人工知能論	工学部	土井 健太郎	木	3	①	131L	5	人	プログラミングに関する基礎知識を前提とする
111	機械力学Ⅰ	工学部	吉田 達哉	木	4	①	大1講	5	人	
112	トライボロジー	工学部	本田 知己	月	2	①	231M	5	人	
113	伝熱工学	工学部	永井 二郎	火	1	①+②	119S	5	人	基本LMS(UNIVERSAL PASSPORT)を用い、講義動画配信はGoogleドライブを使用したオンデマンド遠隔授業

【工学分野 電気電子情報系】

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員		備 考
114	電気機器学	工学部	伊藤 雅一	月	4	①	121M	5	人	
115	電磁気学演習	工学部	川戸 栄	月	4	①+②	221M	5	人	UNIVERSAL PASSPORTとGoogleClassroomを併用します。詳しくはシラバスをご確認ください。
116	離散数学Ⅰ(b)	工学部	東海 彰吾	月	4	①	312L	5	人	
117	電気数学(b)	工学部	山田 徳史	木	4	①	K110(10月のみ) 312L(11月～)	2	人	三角関数までの微分積分ができること
118	システム工学	工学部	王 栄龍	木	5	①	117M	5	人	
119	量子エレクトロニクス	工学部	川戸 栄	木	4	①+②	221M	5	人	Universal Passport RXとGoogleClassroomを併用して行う。詳しくはシラバスを確認すること。

【工学分野 建築・都市環境系】

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員		備 考
120	地震・防災工学	工学部	小嶋 啓介	月	4	①	111M	5	人	
121	応用地質学	工学部	小嶋 啓介	水	3	①	132L	5	人	
122	交通計画	工学部	川本 義海	水	3	①	221M	5	人	
123	国土・地域づくり論	工学部	浅野 周平	水	3	①	117M	5	人	

【工学分野 物質・生命化学系】

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員	備 考
124	機能性高分子	工学部	阪口 壽一 杉原 伸治	月	3	①	132L	5 人	
125	有機化学Ⅰ	工学部	吉見 泰治	水	1	①	大2講	5 人	
126	有機化学Ⅲ	工学部	吉見 泰治	水	3	①	大1講	5 人	基礎的な有機化学を理解していること
127	高分子化学Ⅰ	工学部	杉原 伸治 阪口 壽一	木	2	①	132L	5 人	
128	レオロジー工学	工学部	田中 穰	木	3	①	116M	5 人	
129	生物化学Ⅲ	工学部	沖 昌也 小西 慶幸	金	1	①	133L	5 人	

【工学分野 応用物理学系】

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員	備 考
130	応用力学	工学部	守安 毅	月	3	①	総合大1	3 人	初回は対面、2回目からオンライン(リアルタイム)講義
131	応用数学C(ベクトル解析)	工学部	熊倉 光孝	水	3	①	総合大2	2 人	
132	応用電磁気学	工学部	石松 亮一	金	1	①	総合大2	5 人	

【国際地域学分野】

番号	授業科目名	部局名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員	備 考
133	統計基礎	教育学部	松本 智恵子	火	1	①+②	情報処理演習室	5 人	UNIVERSAL PASSPORTとGoogleClassroomを併用。統計入門を履修していることが望ましい。
134	日本語:歴史と翻訳	国際地域学部	ヘネシー クリストファー	金	2	①	301講	2 人	英語力を確認するため事前に担当教員と相談必要。
135	社会言語学	国際地域学部	キング ケリー	水	6	①	コミュニティプラザ	2 人	

2026年度後期 開放授業科目 [プログラム一覧]

プログラム名: データサイエンス・AI入門

(データ科学・AI教育研究センター共催)

番号	授業科目名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員	備 考	開講学期	
	情報処理基礎	鈴木, 植松							前期	
	情報処理基礎	鈴木, 植松							前期	
	ロボットの知能と学習	高橋 泰岳							前期	
	数理・データサイエンス入門	松本 智恵子 他							前期	
110	人工知能論	土井 健太郎	木	3	①	131L	5	人	プログラミングに関する基礎知識を前提とする	後期
29	対話と直観と共感で学ぶ物理	山田 吉英	月	1	①	理科 カリキュラム 開発実験室	2	人		後期
P1	データサイエンス・AI入門	玉井 良則	火	2	②		5	人	リアルタイムオンライン	後期

プログラム名: 社会人にも役立つリベラルアーツ

番号	授業科目名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員	備 考	開講学期	
	心を探る(心理学概論)	岸 俊行							前期	
	感情・人格心理学	大西 将史							前期	
	哲学とは何か	白川 晋太郎							前期	
	多様性を通して社会を考える	藤岡 徹							前期	
	発展途上国の人間地生態	月原 敏博							前期	
	ドイツの文化	磯崎 康太郎							前期	
	ジェンダー論	羽田野 慶子							前期	
	「生活」とは何か	末川 和代							前期	
11	応用倫理学入門	白川 晋太郎	火	2	①	205講	5	人	後期	
25	主権者意識をはぐくむ	橋本 康弘	木	1	①+②	207講	3	人	Google classroomを活用し、 classroomを通して、具体的 な指示を行います。	後期

プログラム名: 地域創生と持続可能な社会づくり

番号	授業科目名	担当教員名	曜日	時限	授業方法	講義室	募集人員	備 考	開講学期
	現代社会とビジネス	竹本 拓治							前期
	進化する繊維の技術	平田 豊章 他							前期
	まちづくり論	菊地 吉信 他							前期
	科学技術と環境	内村 智博 他							前期
	地域の自然と環境(福井や日本海地域を中心に)	川本 義海 他							前期
	地域の防災・危機管理	松尾 陽一郎 他							前期
4	コミュニティと住民組織	田中 志敬	月	1	①	13講	5	人	後期
6	こども環境学入門	粟原 知子	木	1	①	大2講	5	人	後期

番号について

前掲の「開放授業科目一覧」、後掲の「授業科目の概要」の番号と共通です。
「授業科目の概要」も番号順に掲載していますので、番号・科目名で検索ください。
また、当該学期に開講する科目にのみ番号の記載があります。
曜日・時限だけでなく、開講学期もご確認のうえ受講希望科目を選択してください。

市民開放授業科目概要

授業科目の概要について、より詳しくお知りになりたい場合は、
福井大学 Web シラバスをご参照ください。

<https://syllabus1.sao.u-fukui.ac.jp/>



※シラバス検索画面にて「授業科目名」等で検索してください。

後期開放授業科目〔地域コア科目・教養教育科目〕

本ページに記載の授業概要から授業内容が変更となる可能性がありますので、試験期間時に授業内容をご確認ください。

【ものづくり・産業振興・技術経営分野】

番号	科目名	授業概要
1	半導体の科学	シリコン半導体材料が、現在のエレクトロニクスを支えるキーテクノロジーの一つになっている。この半導体材料および関連材料を基礎からプロセスまで、さらには、最近話題になっている半導体などにまつわる話題をOHP、VTRなどを利用して授業する。特に、小実験を実施して学生の興味を喚起するように授業する。 (1)半導体に関する基礎知識を得る。 (2)半導体の電気伝導機構を理解する。

【持続可能な社会・環境づくり分野】

番号	科目名	授業概要
2	科学技術と倫理	数回のレポートの報告の他、メモする習慣および受講内容を簡単にまとめる習慣をつけるため、毎回300字程度の「まとめ」を執筆提出してもらいます。グループワークや討論結果のプレゼンテーションも行います。
3	科学技術と倫理	技術者倫理は、工学教育の国際標準化の流れが強まった現在、各自がしっかりと身につけることを要求されるばかりでなく、講義室外でも、絶えず高める努力を行うことが必要とされる概念である。本講義の目標は、倫理、科学、工学、といった基本用語の説明から始め、数多くの事例を交えつつ、時にはディベート形式による演習を織り込みながら、どのようにして自分の中で技術者倫理を高めることができるかの手掛かりを提示することにある。
4	コミュニティと住民組織	「住民自治(町内会・自治会等)」から「祭礼(保存会等)」「市民運動・まちづくり(NPO等)」にいたるまで、「コミュニティ」とその運営を担う「住民組織」は多様に存在し、その役割は現代社会の重要な基層となっている。その基礎概念、国内外の事例、取り巻く社会状況、支援体制を学ぶ。社会学的視点から、現代社会の一側面としての、コミュニティとそれを担う住民組織の現状と課題をとらえる。
5	地域の局地気象	地表面状態を含む小さな地形の変化に影響されている地域的な気象現象について解説する。なお、本授業は地域を志向したものであり、地域で生じる自然現象の理解に努める。
6	こども環境学入門	こども環境学の入門編として、子どもを取り巻く様々な分野(医学、建築学、造園学、都市計画学、社会学、社会福祉学、教育学、保育学、発達心理学、体育学)から、学問の領域を超えて子ども環境への視野を広げ、環境の変化が子どもたちにどのような影響を与え得るかを理解する。また、福井の子ども環境について、地域の特性や課題を見つけ、考察する。 座学だけでなく、体や手を動かし、実際に環境を体感することや創造することを通して、自分自身を知り、自分の意見を表現する手法を身につける。 「こども環境学」は学際的科目であり、医学部、工学部、教育学部3学部はもちろん、他大学や現場・地域も含め、子ども環境に係わる様々な分野の学習を目的とした学問である。
7	日本海地域の自然と環境	15名の教員が各自研究している地域の自然と環境問題について解説する。福井を中心とした地域の自然と環境という名の付く広い範囲の分野の入門となる。

【原子力・エネルギー分野】

番号	授業科目名	授業概要
8	災害の科学	我が国は、その気象・地理・地形・地質的条件から、地震や津波、風水害などの自然災害による被害を受ける頻度が高い。本講義では、様々な災害の発生メカニズムならびに災害から建築や街を守り住民の安全・安心を確保するための対策等に関する基礎知識を学ぶとともに、自身のみならず家族や地域での防災・減災のために活用できる応用力を身に付けることを目標とした講義を行う。
9	災害ボランティア論	大学・社会において身につけた専門知識等を、ボランティアに社会に提供する機会には、今後増えることがあろう。特に災害が起きた際には、様々な形でかかわる可能性がある。災害という特殊な環境においても、適切な心構えのもと、各人が専門性を発揮することができるよう、養成する講義である。

【人間理解・言語コミュニケーション分野】

番号	授業科目名	授業概要
10	TOEIC入門	この科目は、TOEIC リスニングおよびリーディング テストの準備を学生に行うことを目的としています。主な「使用例」は、今後3～6か月以内にTOEICを受験することに関心のある学生です。このコースは初めてTOEICを受験する学生を対象としていますが、TOEIC試験の経験豊富な受験者もコースの内容から恩恵を受けることができます。また、さまざまな英語能力レベルの学生を対象としており、初級レベルの学生も歓迎します。 学生の能力レベルに関係なく、テストへの慣れとTOEICスコアの向上を目的として作成および構成されています。 TOEICのリスニングとリーディングのセクションを詳細に検討し、さまざまな質問タイプの練習を行います。各質問タイプの戦略だけでなく、テスト全体で使用されるより一般的な戦略(時間管理など)についても検討します。また、TOEICに特に必要な文法と語彙の練習も行います。

後期開放授業科目〔地域コア科目・教養教育科目〕

本ページに記載の授業概要から授業内容が変更となる可能性がありますので、試験期間時に授業内容をご確認ください。

11	応用倫理学入門	日本ではなぜ死刑制度が認められているのか？ なぜ安楽死は認められていないのか？ なぜ犬や猫をかわいがる裏で牛や豚を食べるのか？ 自動運転車が事故を起こしたら誰がどこまで責任を負うのか？ 入試で下駄を履かせることは許されるのか？ 政府は少子化対策を頑張っているが、こんな社会に子どもを産むことはそもそも正しいことなのか？ 普段の生活のなかで感じる漠然とした違和感や嫌悪感の正体は何なのか？ そもそもなぜ私は他人や社会のために貢献しなければならないのか？ 日常生活や現代社会には倫理的問題にあふれている。唯一の正解はないのだから「人それぞれ」でいいじゃないかと匙を投げたくなるところを一步でも二歩でも考えを進め、できる限り繊細な仕方でも事を捉えられようになることを目指す。 この授業では、思考の枠組みとなる基本的な倫理学説を押さえた上で、現実の幅広い問題に通じることを目標とする。グループワーク、発表の機会を設けて対話的な授業を展開するので、既存の枠組みや常識はいったん忘れて、自由で率直な考えを積極的に表現してほしい。
12	健康管理と食生活	食事によって健康を維持・増進するため、食品中の栄養素(糖質、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミンなど)の消化・吸収や体内での働き、食品衛生と食中毒、食生活と生活習慣病などの栄養学・食品学の基礎的内容について概説する。また、献立作成や調理を行うことにより、自分自身の毎日の食事のとり方を考え、健康的な食生活の実践につなげる。
13	生涯学習とアクティブラーニングA 仕事を通じた学習プロセスを探る	職業人に求められる力、そうした力を実際の仕事の経験を通して培っていくプロセスを、職業人からの聞き取り調査を重ねながら探り、自分自身の生涯にわたる学びへの展望を拓くとともに、そのプロセスを通して協働して探究する学びを体験的に学ぶ。
14	コーチング心理学	コーチの目線から、選手の心理面を強化するために必要な知識と実践方法について学ぶ。 コーチ(教える側)としての人間的成長を目指すための心の教育について学ぶ。

【歴史・文化理解分野】

番号	授業科目名	授業概要
15	ヨーロッパの映画	1895年12月28日、パリのオペラ座にほど近い「グラン・カフェ」でリュミエール兄弟によるシネマトグラフの上映会が催された。一般にこの日付をもって映画が誕生したと見なされる。この講義では、映画が誕生するに至る背景とその過程を概説した上で、フランスをはじめとする各国のサイレント映画の重要作を鑑賞しながら、「第7芸術」の発展に寄与した映画人・芸術家たちの試行錯誤の跡をたどってみたい。ヨーロッパ各国で制作された個性的なサイレント映画の数々を分析的に鑑賞することで、この授業が、受講者にとって、欧米の言語と文化に関して幅広い知識と教養を身に付け、さらには多様な価値観を尊重することの重要性を学ぶ機会となることが期待される。
16	日本語の歴史	日本語の歴史的変遷を知り、日本語資料にどのようなものがあるかを理解する。
17	造形美術の世界－絵画	講義、作品制作、美術評論を組み合わせた実践的学習を通して、美術を表現と理解の両面から捉える力を養うことを目的とする。 水彩や色鉛筆など身近な描画材料を用いた制作や、絵本作りを主軸とした課題に取り組みながら、造形の基礎的な知識と技術に触れる。 また、専門分野の異なる学生や一般市民を含む多様な受講者が参加することを踏まえ、美術に関する専門的知識の有無に関わらず、各自の視点から表現および鑑賞に取り組める内容とする。制作と講評、評論活動を通して、美術を理解し、自らの考えを言語化する力を養う。
18	考古学入門	考古学は人類の過去の物質文化を対象とし、さまざまな手法で分析する学問である。本講義では、考古学の方法と理論、博物館における考古資料の保存や活用について考察する。
19	日本家族史2 (近世からさかのぼる)	本講義では、近世からさかのぼって古代までを対象とし、日本列島における家族の変遷を解説する。近世社会では父子直系で継承される「家」が基礎単位となっており、武家・村・町などの身分集団が成り立っていた。時代をさかのぼりながら、「家」がどのような過程を経て諸身分に広がるに至ったのかという問題に焦点を当てて講義を展開する。受講を通じて、近世以前の家族史を把握するとともに、現代との接点・断絶点を考える姿勢を身につけてもらいたい。
20	地図に見る歴史と景観	地図に描かれた景観の読解を通じて、現在と過去との結びつきを理解すること。 普段、身の回りに存在している諸事象が、遠い過去の出来事と関連しているということも少なくない。本講義では、「変化」の側面だけでなく、「継続」の側面にも注目したい。
21	事件で見る中国思想史	中国の思想は日本を含む東アジア世界に広く受容され、現代社会・文化に大きな影響を与えている。しかし、一口に中国思想と言っても多種多様であり、時の流れの中で変化を積み重ねてきた。そうした思想の多様性や変化は社会体制の変革と表裏一体であり、社会的激動が思想に変化をもたらす。また思想の変化が社会に激動をもたらす。そこで本講義では、思想家の言葉にもとづきつつ、中国思想のターニングポイントを一つの事件として眺めることで中国の思想・社会・文化について考えてゆく。また、随所で現代日本との関わりについても考察する。
22	自然と人間	本授業では歴史を通して人間がいかに自然と向き合い関わってきたかについて考える。自然科学の学問が生まれたとされる西欧の文化圏においては神による世界創造説が長らく支持されてきたが、現在においては科学が数多くの事柄における価値判断の材料となり、世界が創造されたと考える人は多くない。人間はいかにして「科学」を創出し迎い入れてきたのだろうか。また、人々はいかに自然と対峙してきたのだろうか。これらの問いに答えるべく、本授業では人間と自然の関係の諸相を宗教史及び科学史の観点からアプローチし、幾つかのテーマに絞って検討する。
23	造形美術の世界－原初・自然・美	実践的学習(講義、作品制作、美術批評)を通して、人間にとっての「表現活動」について考え、自分なりの「ものを見る力」と「表現力」を養うことを目標としています。 講義と実践的な活動を通して、造形美術の多様性や複雑性、そしてスケールの大きさ(空間的・時間的)への理解を深め、美的感性を培います。

後期開放授業科目〔地域コア科目・教養教育科目〕

本ページに記載の授業概要から授業内容が変更となる可能性がありますので、試験期間時に授業内容をご確認ください。

【社会経済分野】

番号	授業科目名	授業概要
24	マネジメント入門	私たちの生活は密接に企業と関わっている。起きてから寝るまでに、どれだけの企業の製品やサービスと関わっているのだろうか。また、大学生の多くは、卒業後に民間企業に就職する。本講は、こうした企業の経営活動を学修する「入り口」である。 この授業を通して、企業経営について興味を持ち、経営学が卒業後にも「使える学問」としてあることを感じ取って欲しい。経営学は、実際の企業活動に関する現象や因果関係に対して理論付けを行っていく学問であり、様々な他の学問（例えば経済学や社会学・心理学など）との関連性が深い。そうした学際的な一面とは裏腹に、現実的でダイナミックな環境変化に晒されている企業を対象としたものである。 この授業は、経営学を専門として学ぶ学生だけでなく、企業経営に関心を持つ学生の履修を推奨する。自身の専門分野と経営学の関わりについて考えながら受講されたい。
25	主権者意識をはぐくむ	講義の前半では、「主権者」として社会に関わっていくことになるので、「社会とは何か」「社会がわかる」とは何かについて、テレビ番組を分析することを通して、追究する。また、講義の後半では、「主権者意識をはぐくむ」ための基礎的な教養について、外部有識者に話題提供をしてもらい、その内容の理解を深めながら、主権者意識を育んでいく。
26	現代社会論	現代社会における経営組織はさまざまな人々の活動によって成り立っています。経営組織論を使うことで、組織の力が1+1が2よりも大きくなるように、あるいは2よりも小さくならないようにすることができます。この授業では、3つのパートで経営組織論を理解していきます。1)組織の基本的な構造や動くメカニズム、2)組織のメンバーを有効に使うことで、組織の力を大きくするアプローチの理論、3)周りの力をうまく活かしたり、自分の力そのものを大きくしたりするような、持っている力を大きくするアプローチの理論、などについて理解を深めていきます。そして、現代社会における経営事例も交えながら経営組織の力を大きくすることを考えていきます。
27	ラテンアメリカの政治と社会	この授業は、地域研究の視点を通してラテンアメリカ地域について学ぶ入門講義です。地域研究は、特定の地域について、政治、経済、歴史、文化といった様々な角度から眺めて理解しようとする学問です。したがって本授業でも、ラテンアメリカ社会と人々の日常生活を多角的に理解するため、歴史、人種と民族性、ジェンダー、貧困、宗教といった多様なトピックを取り上げます。これら一見バラバラに見えるトピックは、「多様性」および「格差と社会的排除」というキーワードに繋がっています。ラテンアメリカの歴史は、多様な文化的背景を持った人々の営みの歴史です。その多様性は、時に社会経済的な不平等として現れ、社会の「主流」から外れた人々は差別や暴力といった手段によって社会から排除されました。他方で、人々の多様性を認め、より包括的な社会をつくろうと行動を起こす多くの人々がいることも現代のラテンアメリカの現実です。この授業では、ラテンアメリカにおける多様性について理解を深めることを目指します。多様性のルーツはどこにあるのか、多様で包括的な社会の実現がどのように妨げられてきたのか、人々は社会的排除にどのように抵抗してきたかといった問題を、教室での講義と議論を通して考えることが、授業の最終的な目的です。

【科学技術分野】

番号	授業科目名	授業概要
28	ランダム現象の記述	数学や確率・統計の言葉を用いての、集団の性質の記述・読解能力を育成し、「統計リテラシー」能力を身につける。「社会経済・科学技術分野」の教育目標・学習目標である、「自然や社会で起こる出来事をどのように記述し解釈するかを学ぶ」科目の一つとして、学生の今後の研究・社会活動等で必要となるであろう『数学的素養』や『確率・統計的素養』を身につける。
29	対話と直観と共感で学ぶ物理	初等的な古典力学（ニュートン力学）の「生きた知識」を獲得することを目標にして、実証的・論理的な学問である物理学を、対話と直観と共感を活用しながら学びます。理科教育学、物理教育研究、認知科学等の研究によれば、古典力学の理解は一般に信じられているほど容易ではなく、素朴な日常生活経験や、学校理科教育に潜むアリストテレス・スコラ自然学的な説明によってしばしば大きな誤解を残してしまうようです。我々は我々自身の知識に潜むこれらの直観的誤解を明らかにし、それをいかに科学的な理解・直観（概念、認識論、自然観、世界観）へと洗練するか、「共感的な対話」と「批判的（これは慎重で省察的という意味です）な議論」を通して、教員も受講生同士もみな力を合わせて、追究していきましょう。学習者個々人の深い理解はもちろんのこと、他者との協働に好ましい影響がもたらされることを願って、学習資源・授業環境をプロデュースするよう努めます。
30	ゲームとパズルの数学	ゲームやパズルを題材にして、数学的な解析に触れ、現実の問題を考える際の数学の有用性や数学の楽しさを認識する。組合せ論や群論などの数学の基礎的な概念について、ゲームやパズルを導入として、具体的な事象に関連付けて理解する。 ゲームやパズルを題材にして自然や社会で起こる様々な現象を数学の言葉で記述して理解し、活用することを目指す
31	微分方程式と力学～高校力学の一步先へ～	高校の物理で落下運動や単振動を学んだときには「抵抗を無視」して考えた。抵抗を考慮すると落下運動や単振動はどのように変わるのだろうか？本授業ではこのような問題を「微分方程式」という数学的方法を用いて調べる。速度に比例する抵抗を受けて落下する物体の運動や、単振動する質点に速度に比例する抵抗力や一定の振動数の外力が加わった場合に起きる現象（過減衰、臨界減衰、減衰振動、共鳴）を解明する。そのための微分方程式の解法についても詳しく扱う。

後期開放授業科目〔地域コア科目・教養教育科目〕

本ページに記載の授業概要から授業内容が変更となる可能性がありますので、試験期間時に授業内容をご確認ください。

32	科学的な見方・考え方	基本的な幾何光学の知識を、現実の実験・現象に一貫して適用できる定性的な推論能力と、現象の解釈を他者に説明できる表現能力を育成します。 物理学で使う言語は数学ですが、使うのは中学校程度の三角形角度定理、高校程度の三角比・近似くらいなので、自称「文系」の人も(がんばれば)大丈夫なはずです。
33	ニュートリノと放射線	国内では素粒子であるニュートリノ観測が盛んに行われて来っており、同分野でこれまで二度のノーベル賞受賞者を輩出している。ニュートリノは物質と非常に反応しにくい素粒子であり、太陽や地球内部、また稼働中の原子炉から大量に発生している。ニュートリノを観測することで、ニュートリノの性質であったり、天体や原子炉内についての情報を得ることが可能である。本授業ではニュートリノの基本的な性質や、放射線計測技術を用いた観測方法について説明する。これまでのニュートリノ観測の歴史を概観し、本学で取り組んでいる原子炉の稼働状況のモニターを試みる原子炉ニュートリノモニター実験について解説を行う。
P1	データサイエンス・AI入門	[プログラムコース受講者限定科目] 市民開放授業科目概要の最終ページ参照
34	音で診る世界	音に関する様々なトピックを広く扱いながら、質点の振動から始まり、弦の波動へと対象を広げる。最終的に音によって物体内部を診るための技術(非破壊評価)の原理を解き明かしていく。また、振動・波動を題材に、物理系のモデル化と定式化、微分方程式を解くという現実の物理現象の理解のプロセスを学ぶ。
35	くらしの中の電子機器とVR	この授業では、我々の生活で使っている電子機器と、普及しつつあるバーチャルリアリティ(VR)の基礎知識について学ぶ。現在、我々は電子機器に囲まれて生活しているが、その動作原理を知らずに使用していることが多い。そこで、授業の前半では、我々が生活の中で用いている電子機器、特にスマートフォンに搭載されている機能の動作原理を学ぶ。一方、現在、このような電子機器を応用して、VRも普及してきている。授業の後半では、VRとは何か、どのように動いているかを学び、またこれからの社会の中でVRをいかに活用していくかについて考える能力を醸成していく。
36	生体機能と化学物質	生物の機能や生体の巧妙な仕組みが分子のレベルで解き明かされている。この機能を直接あるいは化学的に模倣して、高効率の物質生産やエネルギー創出に利用しようとする研究や、微生物で分解するプラスチックの開発が行われている。一方、ホルモンなどの情報伝達物質といわれる比較的低分子の化合物が生体内で重要な役割を果たしている。化学合成でつくられた医薬品とこれらの化合物の関係、さらには、産業廃棄物等の毒物と生体の関係も明らかにされつつある。このようなことを踏まえて、生体や環境にやさしい化学物質の創出に向けた最近の動きについて考える。

後期開放授業科目〔教養専門教育科目〕

本ページに記載の授業概要から授業内容が変更となる可能性がありますので、試験期間時に授業内容をご確認ください。

【教育学分野】

番号	科目名	授業概要
101	社会保障法	例えば、病気や怪我で医師の治療を受けたとき、医療機関の窓口で支払う「3割負担」の意味は何か。また、残りの7割はどこから来るのかなど、そうと意識していないだけで社会保障は日常の中にある。洋の東西を問わず、かつて十分な医療を受けられるのは富裕層くらいであったが、現代の日本では、誰でも必要な医療を受けられるというのが一応の建前になっている。このような医療へのフリーアクセスを可能にしている制度はどのようなものだろうか。 社会保障法とは日本国憲法25条に規定された生存権について、その実現手法を具体的な立法によって規定し、金銭給付およびサービス給付をとおして生存権の保障を行うことを目的とする一連の法領域のことをいう。単に現在の日本の社会保障制度の理解に留まらず、社会保障法の体系と法解釈、ならびに通底する理念について理解を深めていく。
102	教育測定論	本講義では、心理学・教育学の分野における測定に内在する問題を深く考えるとともに、その理論に関して理解できるようにすることを目的とする。何かしらの評価を行うということは、すなわち何かを「測る」ということに他ならない。本講義では、この点を出発点として、「測る」ということが内包する様々な問題を、様々な理論を中心に解説を行う。また、測定評価が我々の生活場面でどのように活かされまたどのような問題を生じているのかに関しても詳説する。 本講義は、主に教員になる学生を対象とする（そうでない学生の受講に関して特に制限するものではない）。そのため、主に教育現場において、知っておかなければいけない理論としての測定評価を中心に講義を進めていく。
103	初等確率論	将来の様々な状況において必要となる実践的な課題解決力を身に付け、指導する為に、応用数学の1つとして「確率」の基礎を学ぶ。 CP-Edの1(幅広い専門領域を担う教員組織と新しいカリキュラム開発)と3(教科の専門性を高めるバランスある科目配置)、St(数学)のC-2と4に関連する。
104	労働法	労働法は最も守られていない法律のひとつ、と言われる。社会に出たとき、ほとんどの人が何らかの労働関係のもとにあるだろう。そうしたときに、自分がどのような立場にあるのか、働く上で何が尊重されなければならないのかといったことが少しでも思い出せるように、労働法の基礎的な知識と考え方の習得を目標とする。 加えて、労働法の基礎的理解を通じて、市民法とは異なる社会法の特長・性質を見通せるようにする。
105	発達障害教育総論	発達障害とそれに関連した疾患、さらにその支援や合理的配慮に関連する内容について学び、多様な症状や個性に応じた柔軟な支援や合理的配慮を提供できる教師・専門家としての力量を養う。 資料の配布や課題の提出などは、google classroomを使って実施します。クラスコードは「jfa6zz53」ですので、登録をお願いします。
106	障害者福祉制度論	わたしたちの暮らす社会は様々な制度の束として成立している。制度とは、社会を構成する多くの人々によって正当なものとして受け入れられている社会構造や行為様式の体系である。そうした制度の体系が様々な機能を果たすことで私たちの日常を作り出している。むろん、障害者／健常者という非対称なカテゴリー対もまた制度が十全に機能する結果において／として生み出されるものである。 こうした点を念頭に、この授業では、障害者たちの生活現実に関してその経験や論理に伴走しながら検討するとともに、障害者たちの生を支援する実践(介護、介助、ケア、看護 etc.)のリアリティはどのように組織され、語られ、議論されてきたのかといった点について、健常者の眼差しを経由しつつ考察していく。具体的には、「介助」や「ケア」といった制度的営為を、公共圏と親密圏の双方を融通無碍に往来しながら立体的かつ包括的に捉え直していくことを目的とする。とりわけ、病者や障害者の生(生存と生活)に着目しつつ、可能な限り具体的な事例を取り上げながら、ケアや介助に関して、より現実的な認識の確立を目指していく。病者や障害者を十全に配慮し、社会に包摂することは、現代社会にとって喫緊の課題である。そのための手がかりを自分なりにつかみ取ってほしい。

【工学分野 機械・システム系】

番号	科目名	授業概要
107	熱力学Ⅱ	熱力学では、熱・仕事に関与する系に生じる現象を理解し、有効なエネルギーの出入り量を知り、ガスや蒸気を動作流体とする動力機械の設計を行うための基礎的な知識を得る。熱力学Ⅱでは、熱力学Ⅰで学んだ熱力学の基礎知識(熱力学第1・第2法則、理想気体の性質と状態変化)を応用し、有効エネルギーの概念および実在気体の性質と状態変化を理解し、ガスサイクルや蒸気サイクル等の各種熱サイクルの原理の把握とそれらの性能評価計算ができるようにする。
108	原子炉構造工学入門	原子炉圧力容器の設計・製造・維持を中心に、原子力プラントの安全性を確保するための評価技術について理解する。構造材料の基礎的な変形特性や破壊特性を理解し、規制基準における構造安全の位置付けと安全基準の意味を学ぶ。演習レポートを通じて、個々のテーマに関して理解を深める。
109	機械材料Ⅰ	機械設計にあたり、用いる材料の諸特性を理解することは、機械部品の形状決定および加工と関連して重要である。この授業では、材料と社会・環境との関連を理解するとともに、材料の諸特性や状態変化を理解する上で必要な基礎的事項に関する知識を得る。 技術が自然や社会におよぼす影響を理解する。機械工学の主要分野(材料と構造)に関する基礎知識を得る。必修科目「機械材料」の理解への一助となる基礎知識を得る。

後期開放授業科目〔教養専門教育科目〕

本ページに記載の授業概要から授業内容が変更となる可能性がありますので、試験期間時に授業内容をご確認ください。

110	人工知能論	(1)講義の目標 人工知能の基礎的な技術を具体的に理解し、工学的課題に対する問題解決に際してプログラミングを通してそれらの技術を応用できるようになることを目標とする。 (2)学科の学習・教育到達目標との関連 人工知能はロボティクスコースの主題の一つである。本講義では、その基礎技術を扱う。 コンピュータの基礎を学ぶ ものづくりのできる人材を育成する
111	機械力学Ⅰ	振動工学は機械の運転に伴う振動現象を解明し、その対策を考える学問である。授業では、振動工学の基本である1自由度振動系の運動方程式の導き方、解析法、共振について講義し、振動工学の基礎知識を修得してもらう。また、振動対策の一つである振動絶縁の原理および2自由度振動系の基礎についても説明し、知識の発展を目指す。
112	トライボロジー	機械設計にあたり、機械システムをなめらかに高精度で運転するための基盤技術を理解することは重要である。この授業では、摩擦・摩耗・潤滑と社会・環境との関連を理解するとともに、それらに関する科学技術(トライボロジー)に関する基礎的事項に関する知識を得る。 技術が自然や社会におよぼす影響を理解する。機械工学の主要分野(材料と構造)、及び基盤技術に関する基礎知識を得る。
113	伝熱工学	熱力学では温度が一般的な平衡状態を対象としていた。伝熱工学は、温度の空間分布や時間変化あるいは熱の移動速度を対象とする。伝熱(熱移動)の基本形態である熱伝導、対流熱伝達、ふく射(放射)伝熱の基礎法則を理解し「伝熱的なセンス」を身につけ、対流熱伝達が主要素である熱交換器、熱伝導が主要素である断熱壁、ふく射伝熱が主要素である燃焼炉など様々な熱機器の伝熱計算や、その他種々の伝熱現象の熱計算ができるようにする。

【工学分野 電気電子情報系】

番号	科目名	授業概要
114	電気機器学	本授業は、電気・電子工学のエネルギー工学分野の専門科目で、3年前期「エネルギー変換工学」で学ぶ電磁エネルギー変換の原理についての基礎知識の理解の上に立ち、それを応用して機器として実現された各種電気機器、すなわち、変圧器、誘導機、直流機、同期機の特性についての理解を深め、電力変換機器に関する諸問題の解決に応用できる能力を身につける。
115	電磁気学演習	電気電子情報工学の基礎となる電磁気学を学びます。1・2年次に受講の「微分積分Ⅰ・Ⅱ」「線形代数Ⅰ・Ⅱ」「数学演習」「電気数学」などを数学的な基礎とし、「電磁気学基礎」および「物理学A(力学)」を物理学的な基礎とします。この講義を理解するためには数学と物理が必須となりますので、苦手な方はそれぞれの「ステップアップ」の講義・演習を受講して下さい。 講義の形態は演習問題の出題とその背景を交えた講義となります。3年次に受講するほとんどの専門科目の基礎となります。「電磁気学Ⅰ・Ⅱ」と連携しますので全て履修して下さい。
116	離散数学Ⅰ(b)	計算をする機械であるコンピュータで“情報”を扱うためには、情報やその処理を数学的に表現する必要があります。その基礎となる数学が離散数学です。この講義では離散数学の学習を通じて、情報やその処理を扱うための数学的な考え方、記述法や計算法を学びます。具体的には、特に情報分野全般に関わる重要な項目として、集合、論理と証明、関係、写像と関数、代数系を取り上げ、その基礎的事項について学びます。
117	電気数学(b)	常微分方程式の解法について学ぶ。特に、変数分離型の微分方程式、1階および2階の定数係数線形微分方程式に重点を置く。また、線形微分方程式を扱う上で必要となる複素数の扱いについても学ぶ。本授業で扱う内容は、電気・電子系の専門科目のみならず、情報系の専門科目を学ぶ上でも必要となる。
118	システム工学	授業を通して習得させようとする内容(目標): ・解きたい問題を最適化問題として数理モデル化できる基礎能力 ・数理モデル化した問題をシステム工学で使用される代表的な手法(最適化手法)を用いて解ける基礎能力 ・最適化手法の概念(なぜ最適化手法で解けるのか)を理解する基礎能力
119	量子エレクトロニクス	量子エレクトロニクスは、光と物質のコヒーレントな相互作用をさまざまな分野へ応用する学問です。電子技術として知られているエレクトロニクスに相当する量子技術、いわゆるフォトリクスとも言われています。 本講義では、量子力学の基本的な考え方を復習した後、光と物質の相互作用の基本的な考え方を学びます。次に、量子エレクトロニクスの基盤となるレーザーの原理と特性を学ぶとともに、その応用を学びます。以上の講義を通して、レーザーの研究開発と応用に必要となる基礎学力を養成します。

【工学分野 建築・都市環境系】

番号	科目名	授業概要
120	地震・防災工学	前半では日本と世界の地震災害事例、日本周辺の地震環境、津波災害について学ぶとともに、地震の尺度や地震動の発生と伝播について学習する。後半では建物の振動特性をに加え、土木・建築構造物への入力である地表付近の地震応答に的を絞る、その生成メカニズム、地震動の分析法、地盤および構造物への影響を学ぶとともに、液化化のメカニズム及びその対策法について学習する。

後期開放授業科目〔教養専門教育科目〕

本ページに記載の授業概要から授業内容が変更となる可能性がありますので、試験期間時に授業内容をご確認ください。

121	応用地質学	グローバルテクトニクスの立場からは、大地は絶えず運動しており、時として地震や火山噴火のようにダイナミックな本性を現し、悠久の時を経てヒマラヤの峰のような壮大な地形を形成する。応用地質学では建設・防災工学の見地から大地、ひいては地球というものを取り上げ、弾性波探査などの地球内部の探査法と、そこから求まる地球の構成、プレートテクトニクス理論に基づく地球表面のダイナミクスおよび地震のメカニズム、工学的に重要な第四紀以降の地形の形成と地盤条件、岩石・土質材料の特徴などについて学ぶ。
122	交通計画	地球環境の保全や安心安全で持続可能な生活空間の構築に向けて、交通計画が果たすべき役割を認識するとともに、その具体的課題に対する基礎的知識を身につけます。さらに技術者として具体的にどのように行動するか、その規範となる素養を醸成することを目標とします。これにより生活の中から問題を発見し物事を自ら考えようとする姿勢、またこれまで身に付けた専門知識とそれとを結び付け論理的に展開する能力を育成します。
123	国土・地域づくり論	戦後の国土計画の理念、内容、開発方式の変遷を社会状況との関連を踏まえながら体系的に整理するとともに、国土・地域づくりに関連する基礎的事項や現在の課題を学習する。さらに、今後の国土・地域づくりを見据えた取り組みや評価手法等についても学習する。

【工学分野 物質・生命化学系】

番号	科目名	授業概要
124	機能性高分子	高分子材料は、これまでの構造材料としての用途から、特別な機能を生かした材料への転換が試みられ、いわゆる汎用高分子材料とは違った性能を持った高分子材料が開発されてきた。本講義では、それら高分子のいくつかを取り上げ、分子レベルから分子集合体・複合体に至る機能性発現の機構について概説する。
125	有機化学Ⅰ	授業の概要: 有機化学Ⅰは、4科目で構成する有機化学の第一部であり、他の化学系科目でも重要とされる基本的概念について勉強する。まず、有機化学の範囲を提示した上で、化学結合について勉強し、混成の概念を理解する。次いで、結合生成に伴う分子の形成と、極性の発生、並びに、酸塩基や反応剤としてふるまう分子の特徴を見た上で、立体化学の基礎を勉強する。アルカン、シクロアルカンの構造を通じて、以上の概念の定着と、命名法の初歩を概説した後、ハロアルカンから実際の反応例に入る。
126	有機化学Ⅲ	有機化学Ⅲに引き続き、芳香族求電子置換反応やカルボニル基の反応性について講義すると共に、有機反応の反応機構を理解し、生化学や物理化学などと合わせて、分子論的な考えを定着させる。
127	高分子化学Ⅰ	授業を通して習得させようとする内容(目標) プラスチック、ゴム、繊維などの材料は分子量の大きい分子(高分子)から成り立っている。本授業ではこのような高分子物質を低分子から合成するための重合反応の原理を理解させることを目標とする。特に重縮合と重付加、不飽和化合物のラジカル重合について学習する。
128	レオロジー工学	レオロジー工学は繊維・機能性材料工学コースの専門知識と技術を学ぶ科目です。 材料の流動と変形を取り扱うことが、材料開発においていかに重要であるかを習得し、そのあと、材料の流動と変形を取り扱う方法を身につけます。さらに、これらの方法を“現実には観察される事柄”へあてはめることを見ます。身のまわりで観察できるレオロジー挙動は、分子論的、構造論的に説明がつくことを学び、これを次世代の材料開発にいかに関用していくのかを考えます。
129	生物化学Ⅲ	今後、生物の分野を学習していく上で基本となる DNA、RNA、蛋白質などの生体分子の構造と機能を学習する。その後、DNA の自己複製機構、DNA の修復機構、DNA の組換え機構、遺伝子発現、タンパク質合成システムなどの分子レベルでのメカニズムを理解する。バイオテクノロジー分野は医薬・食品・化学系分野をはじめとして多岐に渡るが、本講義で分子生物学の基礎を学び、将来、遺伝子工学的手法を用いて様々な応用を行って行く上での基盤を築く。前半(1-8週)を沖、後半(9-16週)を小西がそれぞれ担当する。

【工学分野 応用物理学系】

番号	科目名	授業概要
130	応用力学	物理学A(力学)に引き続き、物理学の最重要な基礎である初等力学を学ぶ。角運動量および惑星の運動、2個以上の質点からなる系(質点系)の取り扱い、特別な質点系としての剛体の運動、回転座標系での質点の運動方程式という4つの項目について基礎知識を習得する。
131	応用数学C(ベクトル解析)	ベクトル解析は、科学・工学分野で扱うベクトル量に関する数学的な基礎をまとめた科目である。電磁気学や量子力学などを将来学ぶうえで、身に付けていることが前提となる内容である。ベクトルに関する様々な演算・表記の意味を理解し、自分で計算を行うことができるように、講義を通して演算の定義や定理、特徴を学ぶとともに、課題レポートを通して演習問題に取り組む。 外積などの基礎的な代数を確認したのち、微積分を導入する。これらを用いて、始めに、曲線・曲面・運動の表現にベクトルを応用する方法を紹介する。次に、スカラー場・ベクトル場に関する特徴的な量(勾配、発散、回転、線積分・面積分)について解説し、それらの間に成り立つ発散定理・ストークスの定理を紹介する。それぞれの項目は、毎回レポート問題で定着を確認し、段階的な修得を助ける。授業では具体的な計算方法も解説し、応用に必要となる手法を具体的に修得する。授業を通して、ベクトルの微分・積分を基礎に、曲線・曲面・運動・スカラー場・ベクトル場の特徴的な量の定義を身に付け、それぞれを自ら計算できること、そして、ベクトル場についての線積分・面積分を理解し、ガウスの定理やストークスの定理を用いるなどしてその計算ができることが目標である。

後期開放授業科目〔教養専門教育科目〕

本ページに記載の授業概要から授業内容が変更となる可能性がありますので、試験期間時に授業内容をご確認ください。

132	応用電磁気学	電磁気学は、電磁気的現象を取り扱う分野であり、非常に多くの自然現象が電磁気学の考えを基にして理解できる。電磁気学は、電気・電子工学や通信技術などの電気と磁気に関連した様々な科学技術分野に応用されており、現代社会は電磁気学の成果に支えられているといっても過言ではない。この授業では、電磁気学のなかで、電流と磁場の間に成り立つ関係について学ぶ。
-----	--------	--

【国際地域学分野】

番号	科目名	授業概要
133	統計基礎	近年、様々なデータがオンライン上で利用できるようになっている。また、ビックデータと呼ばれる大規模なデータが活用されるようになっている。本科目では、統計分析、特に推測統計学と多変量データ解析術を中心に、データの扱い方や処理の方法について学ぶ。統計分析ソフトを用いてデータ処理を実際に行いながら、どのような場合にどのような分析を行えばよいのか、またその結果をどのように活用すべきかについて学ぶ。
134	日本語：歴史と翻訳	今日、世界中で約一億三千万人の人が日本語を話している。近代日本語は、世界中で一番多く話されている言語の一つと言える。しかし、歴史を遡ると、現代の日本語話者が例えば二百年前の日本語を理解することは困難であろう。何が変わったのか？また、なぜそのような変化が起こったのか？このコースでは、言語学的原理を応用し、また歴史言語学の基本概念と分析方法を紹介しながら、奈良時代以前から現代に至るまでの日本語を時系列順に追っていく。そして、日本語の歴史言語学的変化、社会言語学的側面、日本語教育史、世界中の言語における日本語の位置づけなどについて考察する。
135	社会言語学	This is an introductory course on some of the topics of study within sociolinguistics. Sociolinguistics is a broad field, which includes many types of research and research methodology. However, in a general sense, we can define sociolinguistics as the study of how societies and languages interact and the linguistic behaviors and attitudes that develop or are challenged as a result of this interaction. In other words, sociolinguistics looks at how language functions socially, how individuals and groups actually use language and what this “says” about them/us.

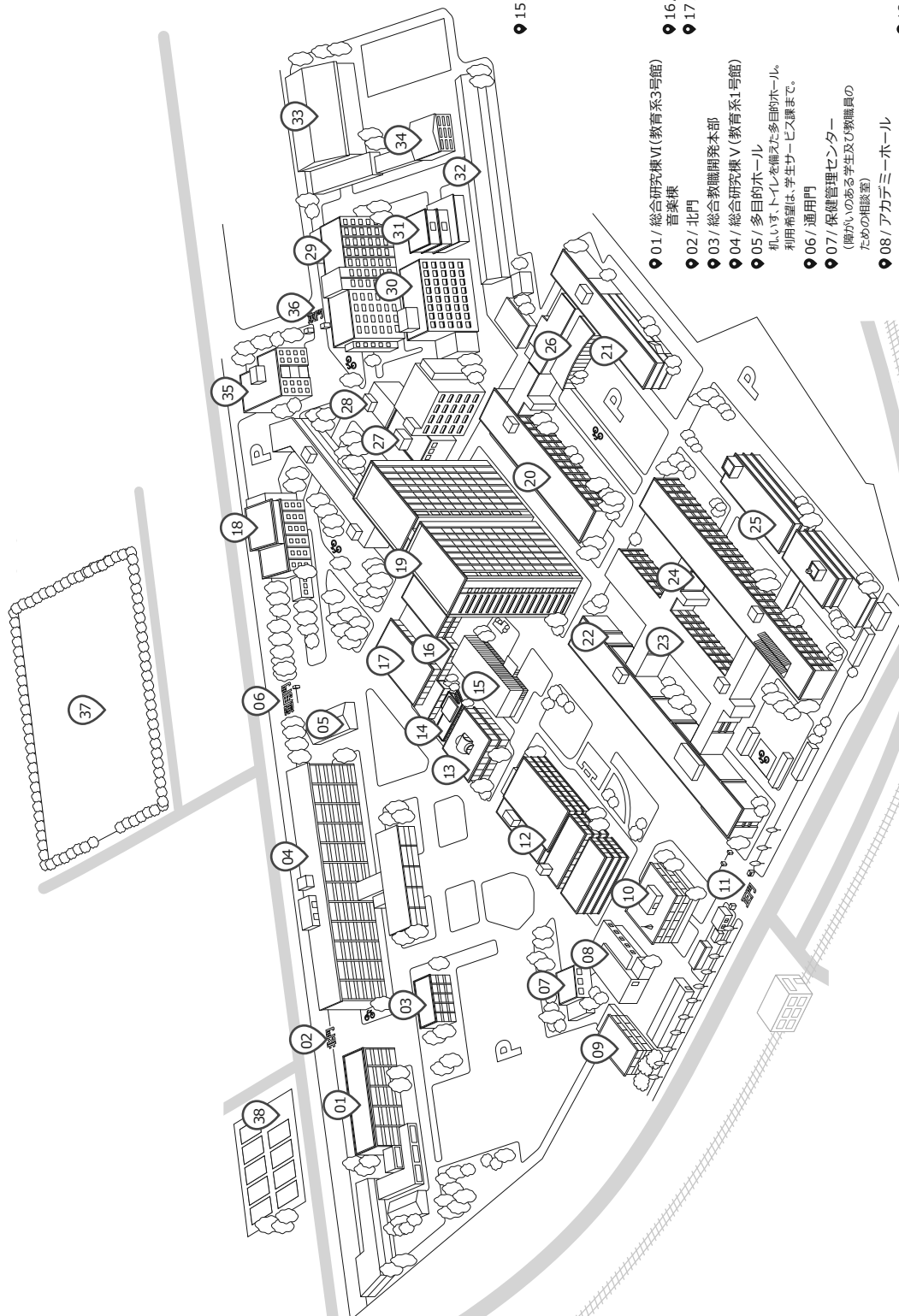
後期開放授業科目〔プログラムコース受講者限定科目〕

本ページに記載の授業概要から授業内容が変更となる可能性がありますので、試験期間時に授業内容をご確認ください。

番号	科目名	授業概要
P1	データサイエンス・AI入門	データサイエンスおよび人工知能(AI)の基礎を学びます。講義と実習を併用し、データ分析の基礎、データサイエンスの各種手法、機械学習とAIの基礎を学びます。AIを使った文字認識の実習にも挑戦します。

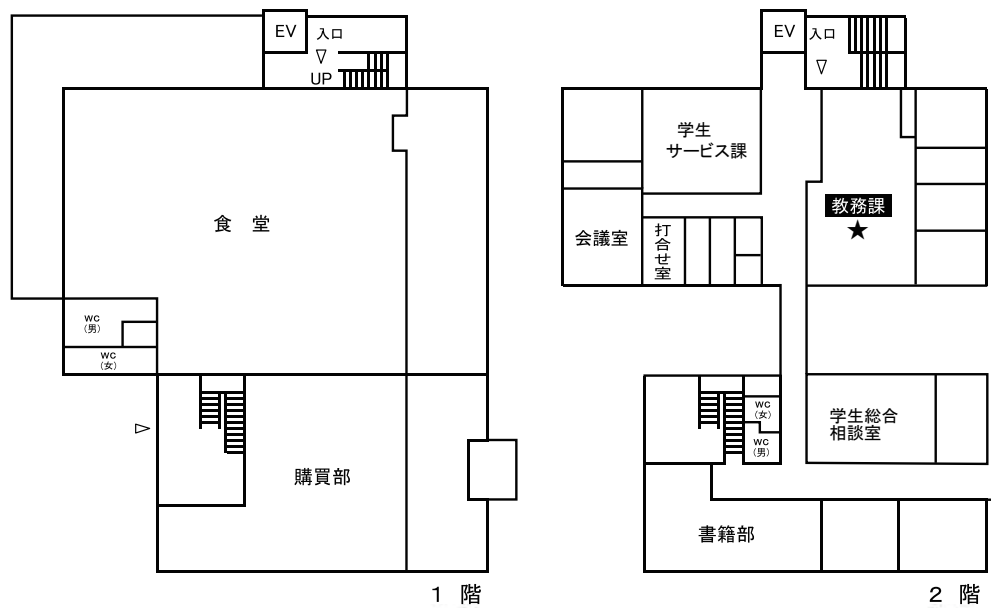
福井大学建物・講義室等配置図

(文京キャンパス)



- 01/ 総合研究棟Ⅵ(教育学系3号館)
音楽棟
- 02/ 北門
- 03/ 総合教職開発本部
- 04/ 総合研究棟Ⅴ(教育学系1号館)
- 05/ 多目的ホール
机いす、トイレを備えた多目的ホール。
利用希望は、学生サービス課まで。
- 06/ 通用門
- 07/ 保健管理センター
(病がいのある学生及び教職員の
ための相談室)
- 08/ アカデミーホール
- 09/ 牧島ハウス
- 10/ 本部棟・キャンパス便乗の場
- 11/ 正門・守衛所
- 12/ 総合図書館
クローバーユニティ・クラフト(GCC)2F
- 13/ 総合情報基盤センター
- 14/ 学生交流スペース「木立の広場」
- 15/ 学生交流センター
国際課(1F)
クローバーユニティ推進課(1F)
セレン クローバー(1F)
キャリア支援課(2F)
キャリアセンター(2F)
入試課(3F)
- 16/ ATM(ゆうちょ銀行)
- 17/ 学生支援センター
学生食堂 カフェテリア喫茶/
ショップ満天(1F)
学生用掲示板(1F)
ブックショップ明日輪/
福井大生協事務所(2F)
証明書自動発行機(2F)
学生サービス課(2F)
- 18/ 共用講義棟
- 19/ 総合研究棟Ⅰ
- 20/ 総合研究棟Ⅳ-1(工学系2号館)
- 21/ 総合研究棟Ⅳ-2(工学系実験棟)
- 22/ 総経理課(北側1F)
授業料や学生宿舍の滞費料の支払い
はこちらで。
- 23/ 総合研究棟Ⅲ(工学系1号館)
- 24/ 工学部生協売店
サテライトショップComet
- 25/ 総合研究棟Ⅲ(工学系4号館)
オープンR&Dファシリティ
(工学系4号館西側)
- 26/ 工学部100周年記念館
- 27/ 産学官連携本部
地域創生推進本部
研究推進課(1F)
地域連携推進課(1F)
- 28/ 未来共創テラススタイルセンター
- 29/ 総合研究棟Ⅶ(工学系3号館)
- 30/ 総合研究棟Ⅱ
(遠赤外線領域研究センター)
- 31/ 超低温物性実験施設
- 32/ 先端科学技術育成センター
- 33/ 第1体育館
- 34/ 第2体育館
- 35/ 課外活動共用棟
さまざまなサークルが活動中。
火気使用は厳禁。
- 36/ 東門
- 37/ グラウンド
- 38/ テニスコート

■⑰ 学生支援センター



★ 共通教育部（学生支援センター 2 階 教務課内）

● 附属図書館を利用することが可能です。

開館時間 月～金 9：00～22：00（休業期間9：00～20：00（8月のみ17：00まで））
土日 13：00～16：00（休業期間は休館）

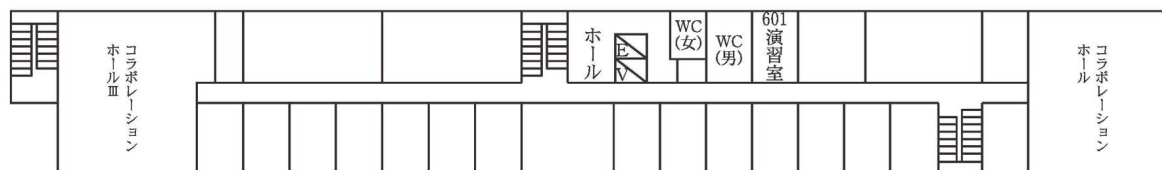
* 入館をはじめいろいろなサービスを受ける際、生涯学習市民開放プログラム受講証が必要ですので、常に携帯してください。

● 食堂及び売店もご利用になれます（休業期間に営業時間に変更になる場合があります）。

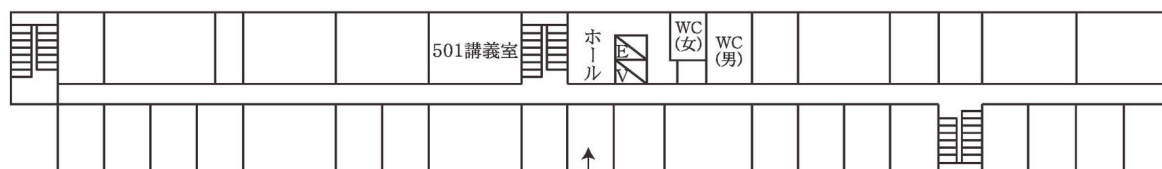
食堂 味菜 Ajisai 月～金 11：15～19：00（土日・祝日は休業）

売店 ショップ満天 月～金 8：15～19：00（土日・祝日は休業）
BookShop明日輪 月～金 10：00～15：00（土日・祝日は休業）

④ [総合研究棟V]
(教育系1号館)



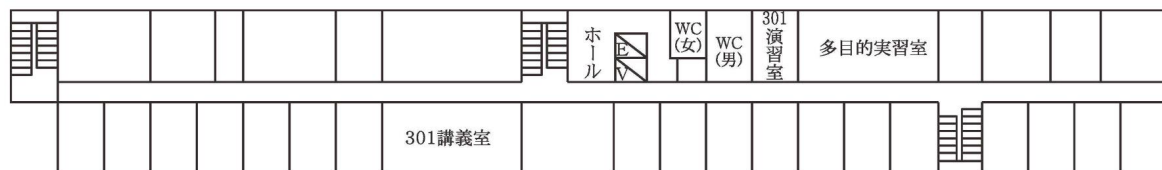
6 階



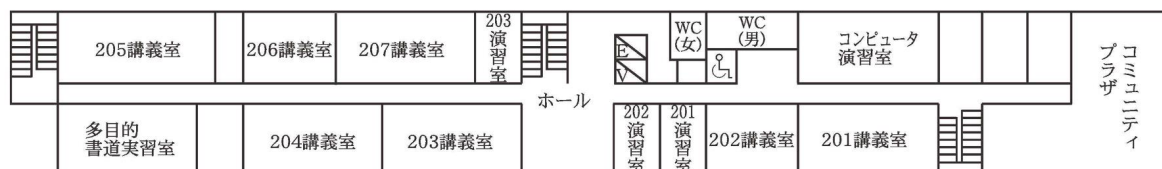
5 階



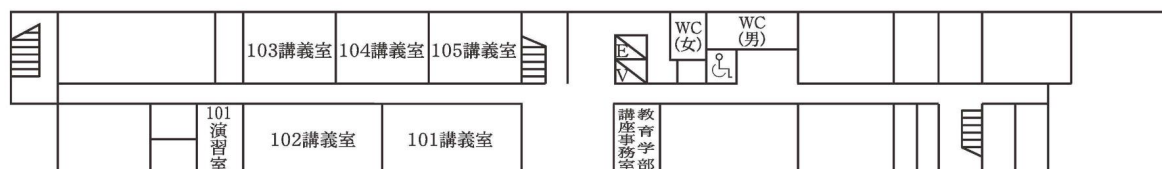
4 階



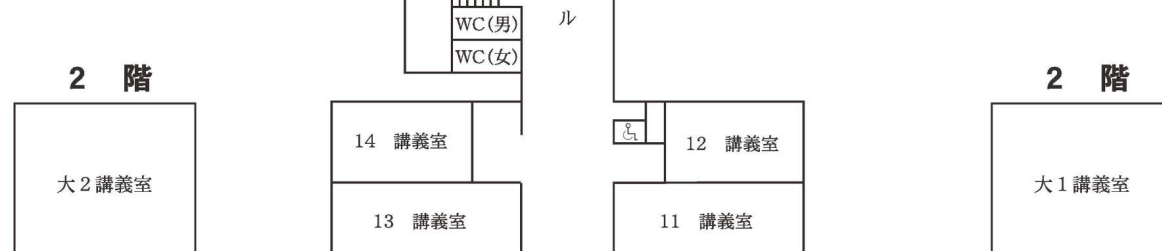
3 階



2 階



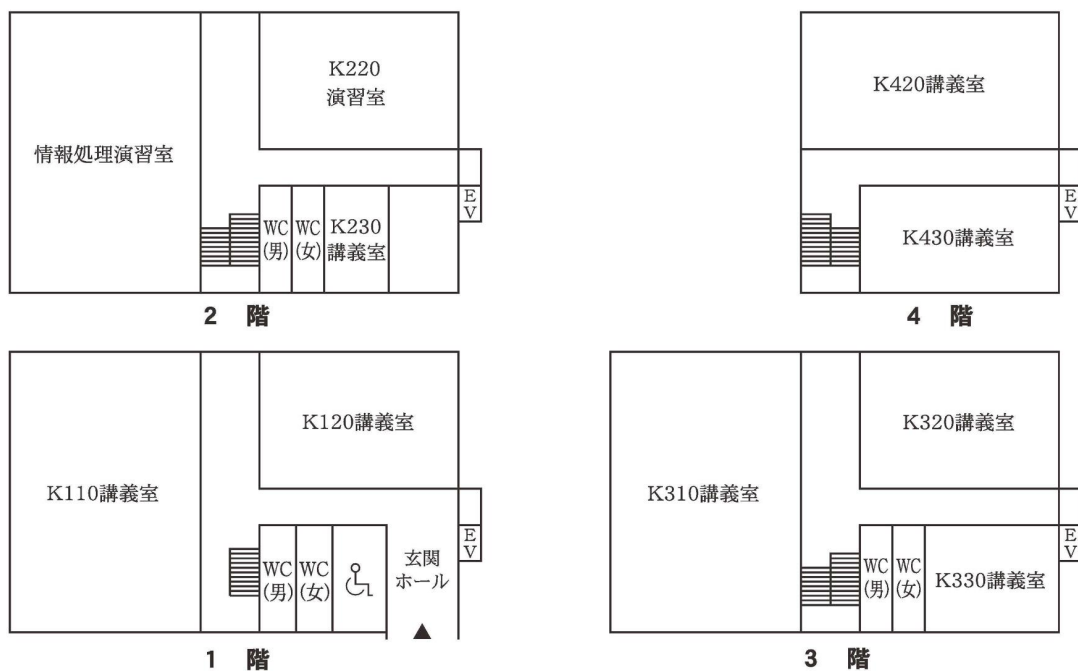
1 階



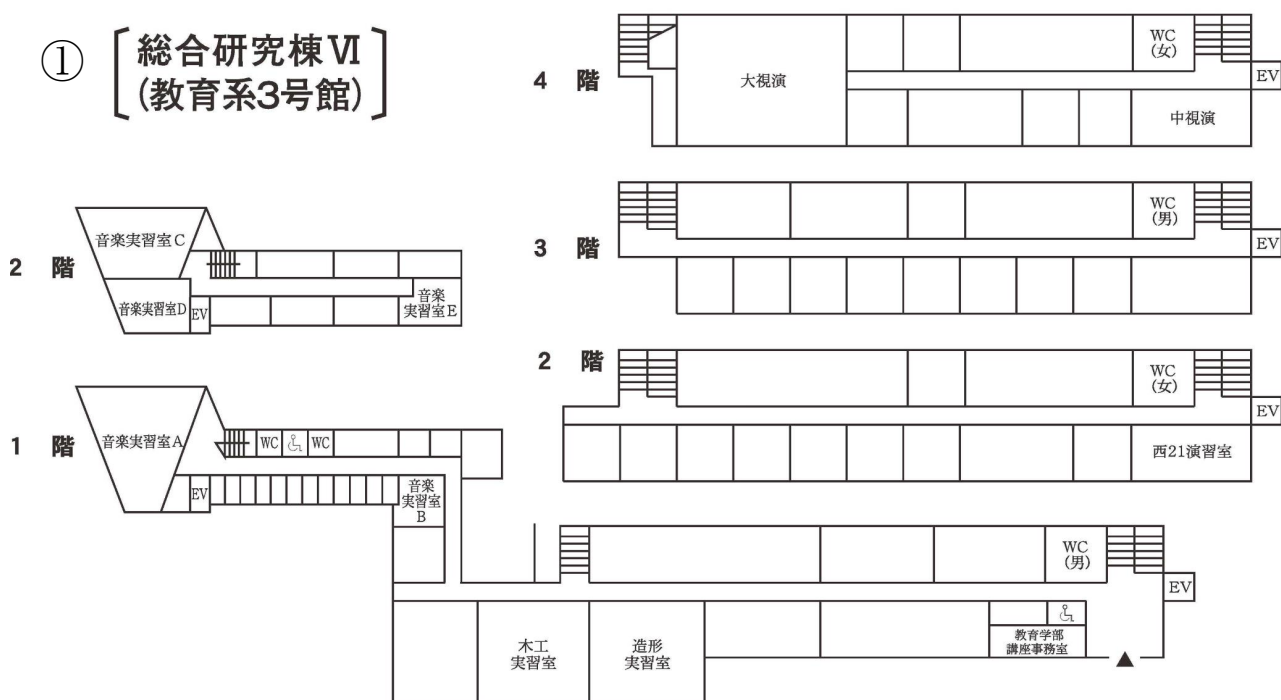
2 階

2 階

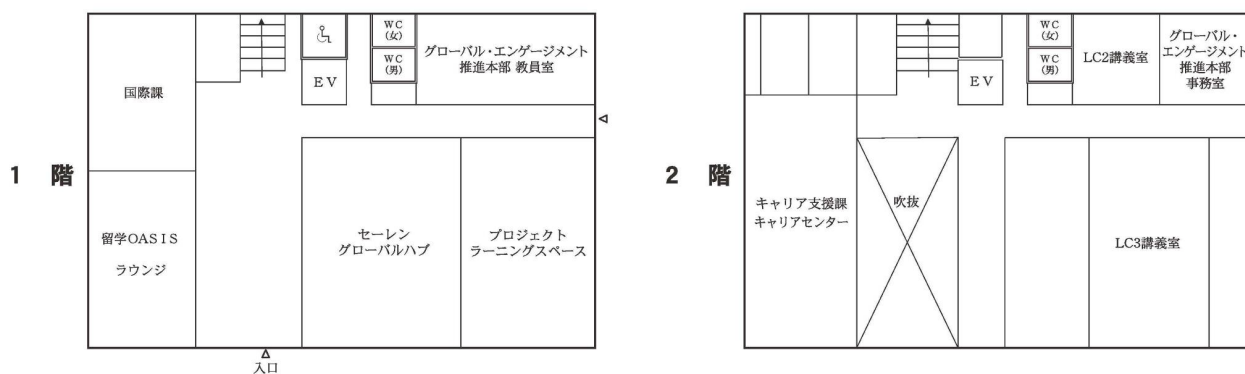
⑱ [共用講義棟]



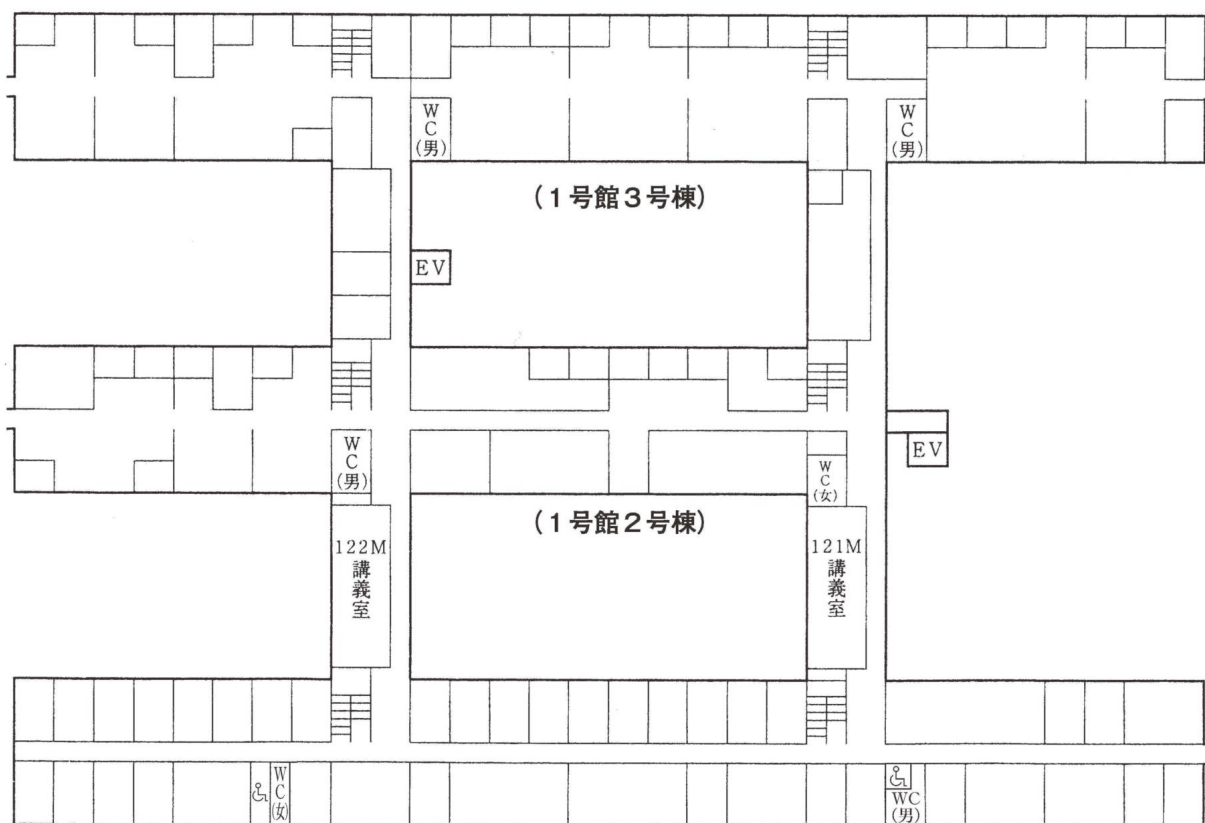
① [総合研究棟Ⅵ (教育系3号館)]



⑮ [学生交流センター]



②3 [総合研究棟Ⅲ (1階・2階)]
(工学系1号館)



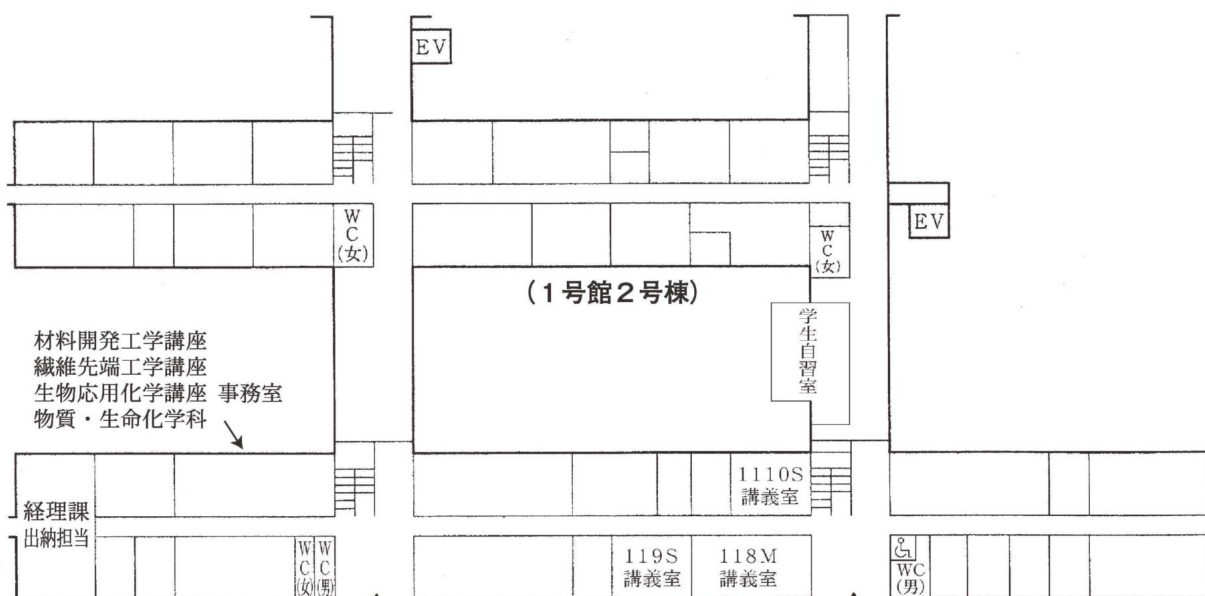
2 階

(1号館1号棟)

電気・電子工学講座 事務室 建築建設工学講座 事務室
電気電子情報工学科 建築・都市環境工学科



(1号館3号棟)

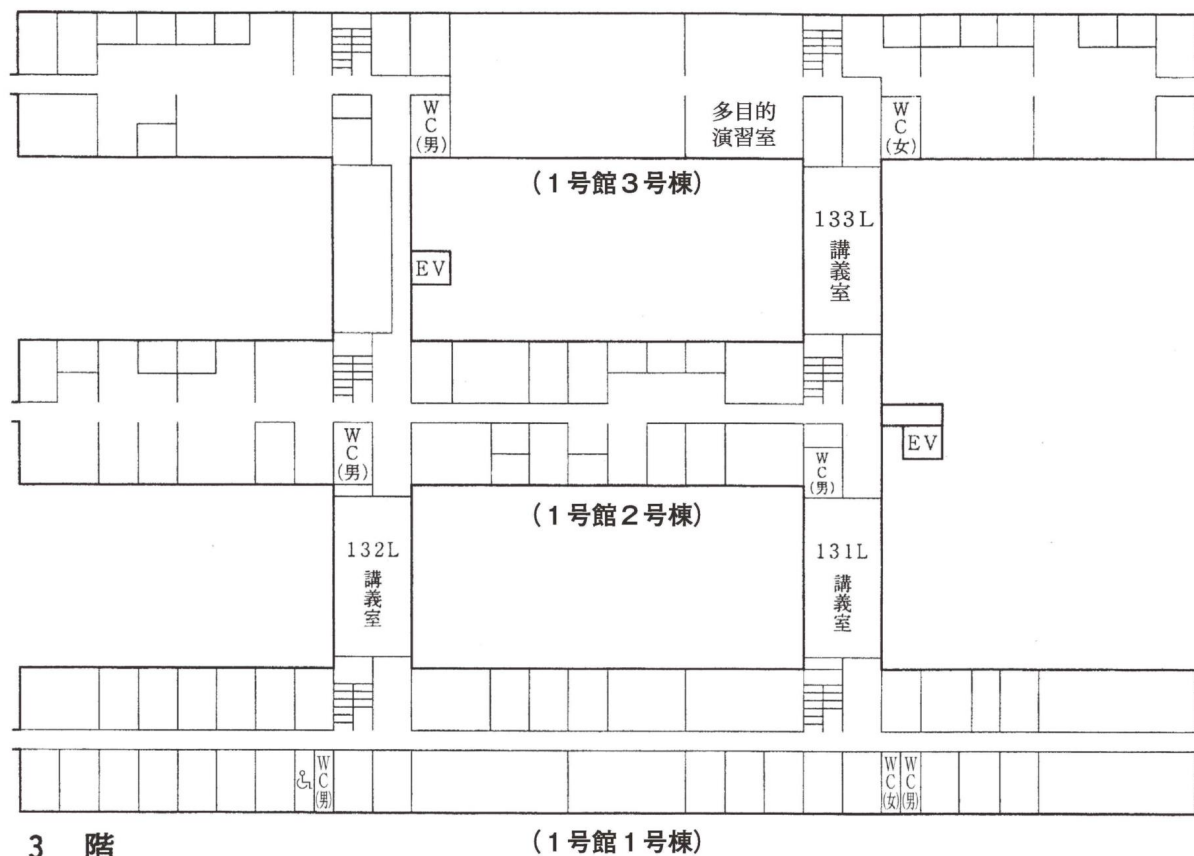


(1号館1号棟)

1 階

②3

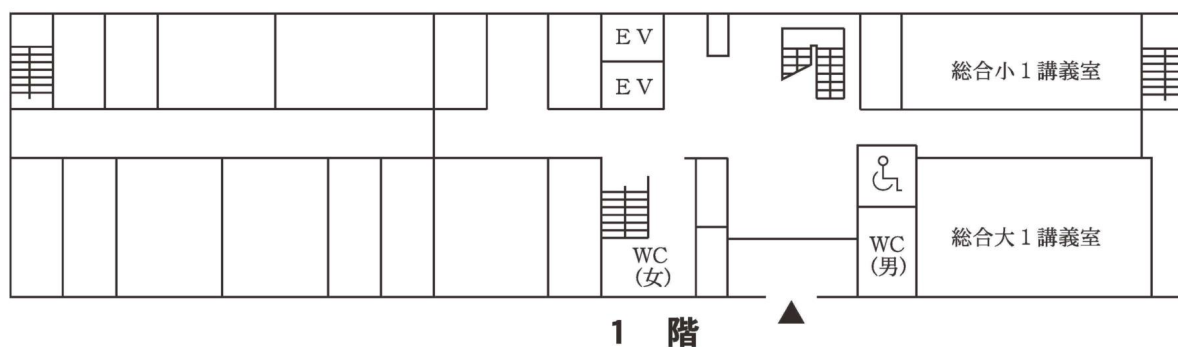
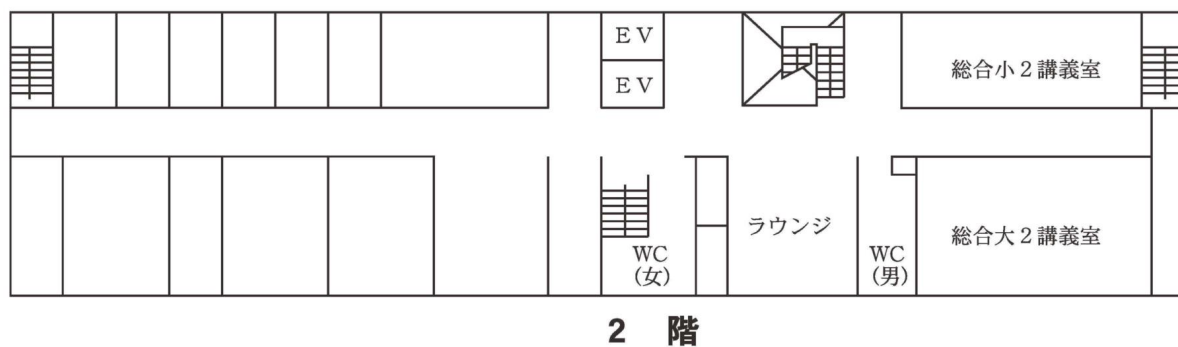
〔総合研究棟Ⅲ(3階)
(工学系1号館)〕



①9

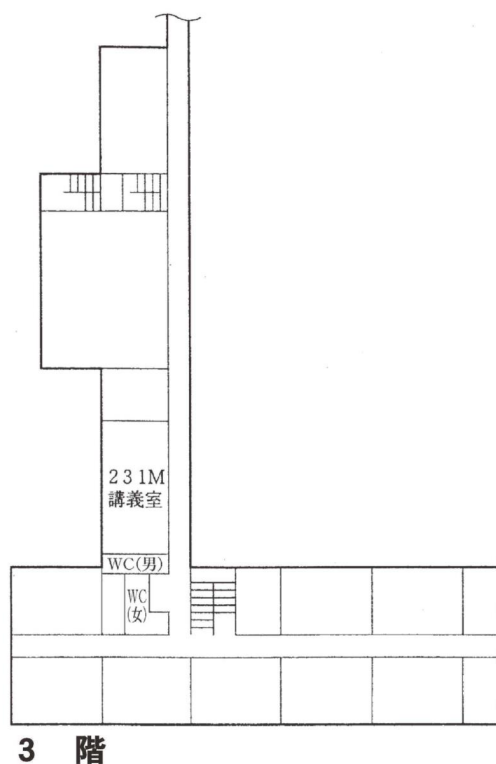
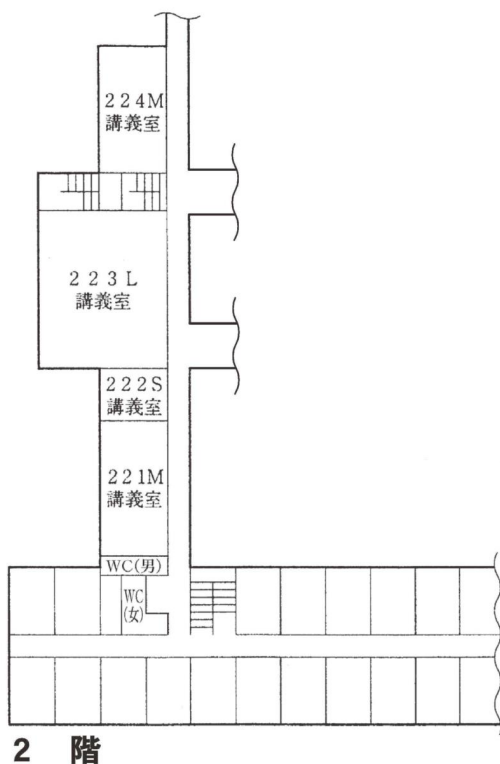
〔総合研究棟Ⅰ〕

3階: 物理学講座・応用物理学科事務室・ロボット工房 3階: 知能システム工学講座・機械・システム工学科事務室
7階: 理数教育演習室 8階: 物理大実験室
9階: 生物学実験室 10階: 理科カリキュラム開発実験室
11階: 地学大実験室 12階: 化学大実験室



②0

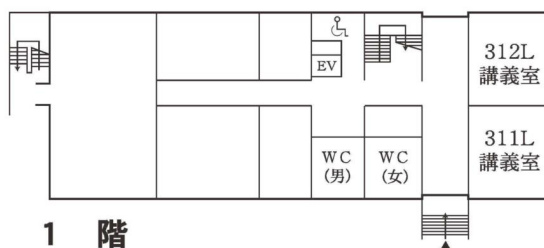
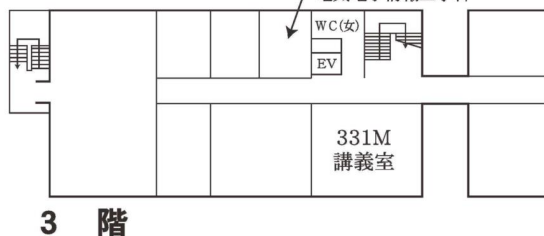
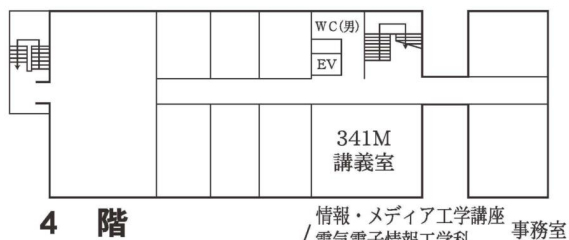
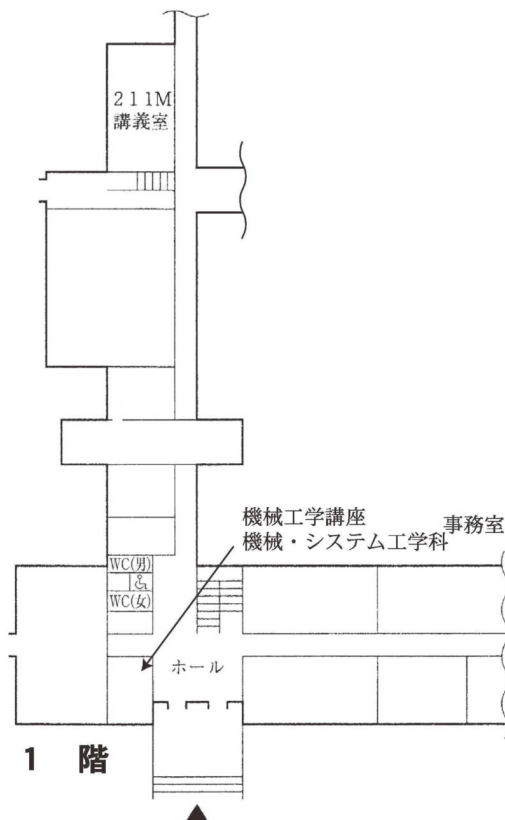
〔総合研究棟Ⅳ（1階・2階・3階）
（工学系2号館）〕



②9

〔総合研究棟Ⅶ（1階・3階・4階）
（工学系3号館）〕

2階：計算機室



令和8年度 福井大学文京・敦賀キャンパス授業日程

	日	月	火	水	木	金	土	事 項
10月					1	2	3	1日 ㊦ 後期授業開始
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	15日 〇 月曜日の授業
	25	26	27	28	29	30	31	
11月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	25日 〇 月曜日の授業
	29	30						
12月			1	2	3	4	5	3日 ☆ 授業予備日
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	26日 ☆ 授業予備日
	27	28	29	30	31			28日～1月3日 冬季休業
9年1月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	15日 □ 大学入学共通テスト準備のため休講
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	29日 ☆ 授業予備日
2月	31							
		1	2	3	4	5	6	1日～5日 後期試験期間
	7	8	9	10	11	12	13	8日～ 春季休業
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28							

授業期間

試験期間



休講



授業の振替日



授業の予備日

こちらの用紙は、インターネットからも申請できます。

<https://forms.gle/dLapaQgNcuxVRc2H7>



年 月 日

2026年度後期
福井大学共通教育部 生涯学習市民開放プログラム

受講希望調書

〒

住所

(ふりがな)

氏名

(男・女)

生年月日(西暦)

年

月

日生

電話番号

携帯番号

Eメール

市民開放プログラム受講歴(該当する箇所には○印) 有 ・ 無

福井大学共通教育部生涯学習市民開放プログラムの受講を下記の通り希望します。

記

【受講形態】

☐ フリーコース

☐ プログラムコース (コース名:)

該当するコースにチェックを入れてください。

【受講希望科目】

フリーコースの場合は「市民開放授業科目一覧」に記載の科目から受講を希望する科目を記入してください。

プログラムコースの場合は「市民開放授業科目一覧」に記載の受講を希望するプログラムの科目群の中から今学期に受講を希望する科目を記入してください。

※ この【受講希望調書】に記載された個人情報は、1. 休講等の諸連絡 2. 募集要項等の送付 3. 統計資料を作成する場合の目的以外には利用せず、適切に管理します。

裏面に希望科目等を記載してください。

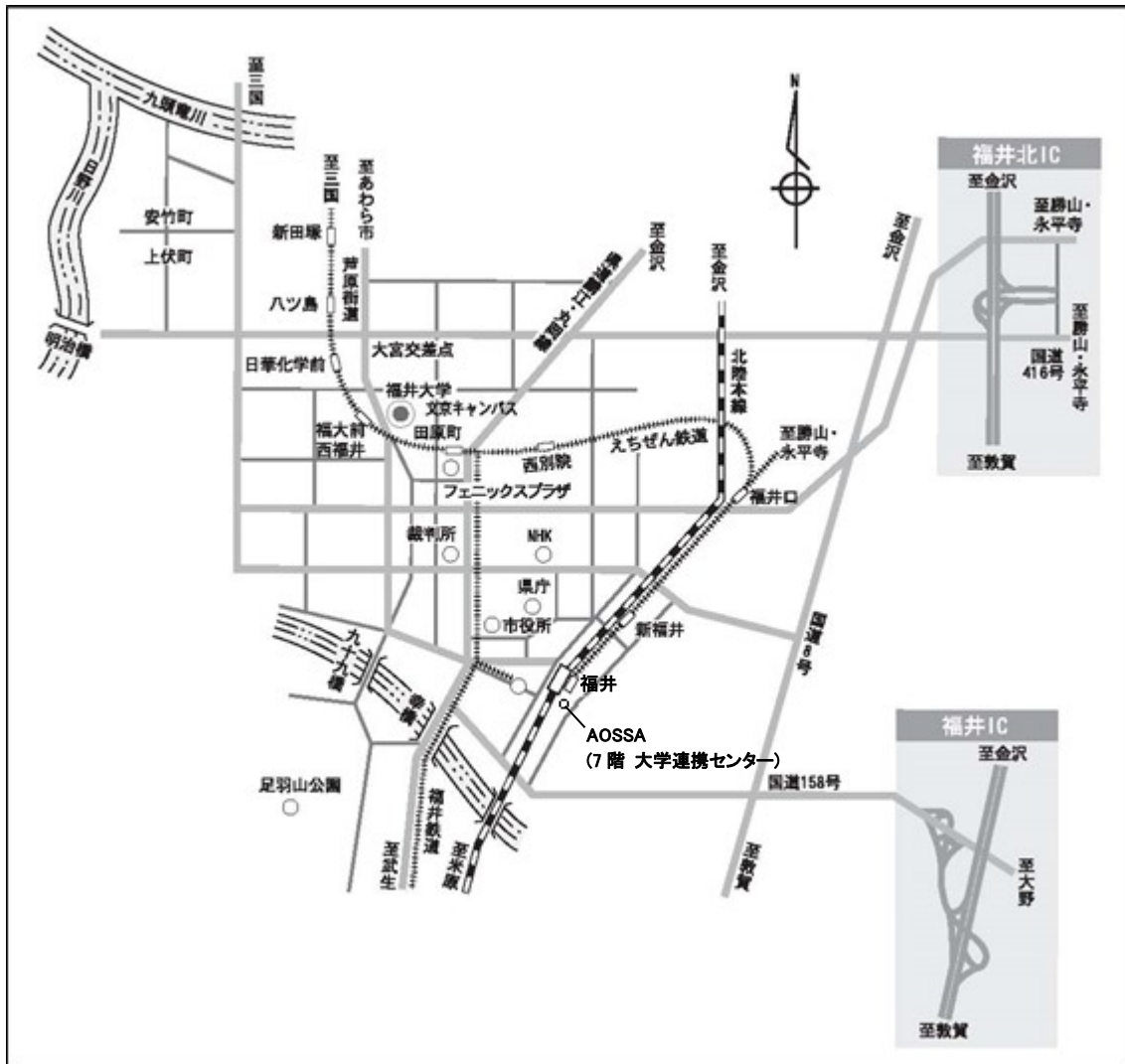
1 科目 目	授業番号	
	授業科目名	
	担当教員	
	開講曜日・時限	曜日 時限

※ 複数の授業科目の受講を希望される方は、下記に記入してください。

※ 同じ時間帯に受講したい授業科目が複数ある場合は1科目しか受講できませんのでご注意ください。（オンデマンド型授業は除く）

2 科目 目	授業番号	
	授業科目名	
	担当教員	
	開講曜日・時限	曜日 時限
3 科目 目	授業番号	
	授業科目名	
	担当教員	
	開講曜日・時限	曜日 時限
4 科目 目	授業番号	
	授業科目名	
	担当教員	
	開講曜日・時限	曜日 時限
5 科目 目	授業番号	
	授業科目名	
	担当教員	
	開講曜日・時限	曜日 時限
6 科目 目	授業番号	
	授業科目名	
	担当教員	
	開講曜日・時限	曜日 時限

交通のご案内



本学（文京キャンパス）へのアクセス

- えちぜん鉄道／福井駅ー(約 10 分)ー福大前西福井駅
(えちぜん鉄道福井駅より三国芦原線に乗車) 福大前西福井駅から正門まで徒歩2分
- 福井鉄道／福井駅ー(約 10 分)ー田原町駅
(福井鉄道福井駅より福武線田原町方面行きに乗車) 田原町駅から東門まで徒歩7分、
またはえちぜん鉄道三国芦原線三国方面行きに乗り換え
- バス／京福バス福井駅ー(約 10 分)ー福井大学前停留所
(JR 福井駅西口バスターミナル2番のりばより乗車)
- タクシー／福井駅ー(約 10 分)ー福井大学文京キャンパス
(必ず「福井大学文京キャンパス」と伝えてください)



福井大学生涯学習市民開放プログラム

受講生募集要項

—— 2026 年度 後期 ——